

サル
ル
メ

「猿女のリレー」

作・演出 松村武

比良坂宗像 (ひらさかしょうぞう)

比良坂浮美世 (ひらさかふみよ)

遣麿 (やりまろ)

日枝照子 (ひえだてるこ)

立ち読み男・高階 (たかしな)

無人 (ぶひと)

日枝昌枝 (ひえだまさえ)

オオアマ

ササラ

頓服 (とんぷく)

なまこ

あられ

凧

波奈備(ばなび)

猿渡光子(さわたりみつこ)

猿渡長安(さわたりちようあん)

和助

削(そぎ)

為(ため)

田馬(でんば)

武田勝頼・隣人

1 比良坂書店

個人経営の小さな本屋、比良坂書店

立ち読み客が一人。店主の目を気にしている

宗像 …いいんですよ。いいよ、立ち読み、続けて

客 すいません

宗像 万が一気に入ったらいいから。ね、そふなったら思い切って買ってもらえれば

客 あ、はい

宗像 別に無理しなくてもいいんだよ。近頃の連中は、紙の本なんて見向きもしないからね。立ち読みでもこっちは実際有難いんだ

客 はい

宗像 お父さん、エロ本？こっちはです。あんまりないけどね、うちは。あれだったらちゃんと包みますから。わかんないように

客 お父さんじゃないんですが

宗像 あ、失敬。お兄さんか

客 ありがとうございます(いづらくて出て行くことする)

宗像 いや、こっちの台詞です

客 あ、すいません

日枝照子が入って来て通路がふさがり、客は出て行けず、また立ち読みを始める

照子

・・・ごめんください

宗像

ごめんください？…本屋に入ってまず客がそんなこと言うか？そう思った通り、日枝照子は、本を買いに来た客でもなければ、暇つぶしにこの比良坂書店へ立ち読みに来たわけでもなかった。何のことはない。表に張り出した店番バイトの募集に応募してきた主婦だった。何せ私もこの年である。日がなほほ無人の店内で居眠りせずじっと座り続けていることも苦になってきた。だからと言って今のところ店を継ぐ者もないから隠居というわけにはいかない。私はこの書店をつぶしたくないのだ。何とかアレしてやりくりし、だましましたでも・・・

照子

夫は一年ほど前にうちを出て行きました

宗像

…ああ、なるほど。立ち入ったことを。大変ですな。しかし、アレですよ。ご覧のような、時代遅れの町の本屋ですから、ほとんど売り上げもね。バイトと言っても気持ち程度のアレしかお出しできませんが・・・お子さんは？

照子

家にはおりません

宗像

…そうですね…それ以上は聞くまい。どうやら結構な問題を抱えてそうである。関わり合いになるのは面倒かもしれない。ここはうまくアレして断るのがよさそうだと私は考えていた…本がお好きなんですか？

照子

紙がいっぱいある場所で働くのがいいと言われたんです

宗像

紙が？

照子

じゃあ、本屋かかって思って、探してたんです

宗像

確かに紙はいっぱいありますけども・・・

照子

ここがいいんです。ああ、ここなんだなって思いました

宗像

あの、ちなみにそれ、紙がどうのっていうのは、どういふことと言われたんですか？

照子

それは、簡単には説明できません

宗像

ああ

照子

ちゃんと話すと日が暮れます

宗像

…うん・・・安いですよ。給料

照子

大丈夫です。あと、俳優もやってて、些少ですが若干の収入があることもあります

宗像

俳優…か。こいつはいわゆるアレか。売れない役者というヤツか。だったら話は早い。何せ俺はそういう人種がそもそも大嫌いなのだ。まともに働きませず、己の好き放題を勝手にやり通すため、周囲にたかって温情に甘え、のうのうと他力本願の人生を謳歌する。何を成し遂げるわけでもないクセに、ささやかに暮らす我々生活者の苦勞を嘲笑い、上から目線でお気楽な夢物語を…大丈夫ですか？

照子が急に苦し気な様子で痙攣気味になっている

照子

…すいません

宗像

医者に・・・あ、救急車・・・

照子　いえ、大丈夫です、救急車は勘弁してください

宗像　でも……

照子　病院じゃ、事態を悪化させるだけですから

宗像　事態を？

照子　はい

宗像　何ですかそれ？

照子　そう言われたんです

宗像　そういうの、どこで言われました？

照子　そういうこと多いんです。そういうところあるんです私。本屋さん、こんな私でもいいでしょうか？何なら今日からでも……

宗像　いやいや

照子　何が出来るってわけでもない。望んでそうなったわけじゃない。でもそうするしかない。つまり、私は選ばれてしまったとしか……

宗像　あの、何だか知りませんがね、いや困るよ。困りますよ、正直。うん。受け止めきれない。理解できない。申し訳ないが、他あたってもらえませんかね？

いつの間にか宗像の娘、浮美世がいる

浮美世

お父さん、それは酷い言い方じゃないの？

宗像 浮美世、何だお前、いつ……

浮美世 話聞いてあげてよ、ちゃんと。その人、一生懸命何かを訴えてるじゃないの

宗像 いや、もう十分聞いたんだよ。聞いた上で、わけわからないんだ。それより、浮美世おまえ、何しに来たんだ？

浮美世 何しに来たって、実家でしょ

宗像 そっだけでも、急におまえ

浮美世 大丈夫ですか？父が、失礼なことを。私、この娘です

照子 あ！

浮美世 は？

照子 あなただ

浮美世 え？何ですか？

照子 合点がいききました

宗像 ほらな、わけわからないんだよ

照子 その人、比良坂浮美世さんは、ジャーナリストでした。そういう人だと瞬間的に思った。当時大新聞は軒並み権力の介入を許し、報道は本来周知すべき情報を、意図的に隠蔽、捏造することで、国家の情報統制の一翼を堂々と担っていました。そんな中であって、比良坂浮美世さんは、一人果敢に水面下の真実を、一般世間に報道しようとする数少ない本物の記者でした

光子

あなたがとうとう辿り着いた人だものね

照子

そっなの光子さん。でもその時、浮美世さんを追い込もうとする間の気配は、すぐ手の届くところまで近づいていた

伴遣磨が比良坂書店に入ってくる

遣磨は浮美世の元夫の弟である

遣磨

いたいた

宗像

ん、君はえっと・・・

遣磨

義姉さん、まだ話終わってませんから

浮美世

チッ、見つかったか

遣磨

すぐわかりますよ。実家なんて

宗像

確か無人君の・・・

遣磨

ご無沙汰してます。兄の結婚式で一度・・・

宗像

ああ、弟さんか

浮美世

しつこいわね、全く

遣磨

話が全然終わってないからです

浮美世

帰ってください。営業妨害ですよ

遣磨

それは義姉さんがこんなところへ逃げてくるからでしょ

宗像

ちよつと君何だ？ん？何か事情は知らんが、娘はどうやら嫌がってるなあ

遣磨

お父さん、いいから

宗像

いや何か知らんがね、この子はもう、君のお兄さんとはとくに別れてんだよ、つまり、もう親戚でもないんだ。それを・・・

遣磨

義姉さん、とりあえず出ましよう

宗像

やめなさいー嫌がってんじやないかー通報しますよ！

遣磨

いいですよ

浮美世

警察の人間なのよ、こいつ。しかも結構上の方にいる

宗像

警察？

遣磨

いわゆる警察じやないですけどね

宗像

おい、浮美世、おまえ何をしでかしたんだ？

浮美世

無駄よ。何があっても私は絶対魂を売らない

照子・光子

猿女の要！

遣磨

そんな凄い無理を言ってるんじゃないでしょ。そのための条件を聞きたいだけなんですよ

浮美世

いづれ然るべく公にいたしますから。それまで楽しみに

遣磨

じゃあ例えばこういう条件ではどうです？（銃を浮美世に構える）

宗像

お、おい！

遣磨は標的を浮美世から宗像に変える

宗像 え……

浮美世 お父さん！

宗像 待て！

遣磨 (引き金をカチリと引くと火がつく) あ、ライターでした

宗像 あああああ！あああああ！

浮美世 ……こんなことして、隠し通せるとでも思ってるの？

遣磨 こんなことしたって、十分隠し通せるんですよ

遣磨はライターを構え、平積みワゴンに火をつける

客 ああ！ああああ！

スローモーションで消火作業に慌てふためく一同

だが火は予想外に大きく広がっていく

不敵に笑いながら去っていく遣磨とすれ違いで消防車がやってきて消火活動

光子 ……その間、照子さんはただ事の成り行きを黙って見ているばかりでした。酷いことになることは、うす

うすわかってたにもかかわらず、それを避けることはできなかった。これまでの彼女の人生に何度も起こってきたことの繰り返しでした。そんな無力な彼女の目の前で、無数の紙が燃え、無数の文字が、無数の言葉が、無数の物語が瞬く間に灰と化して、火の粉をまとって宙空に消えていった…

照子

あの時、一番、酷い火傷を負ったのは、私とその書店を訪れた時にすでに店にいた立ち読みのおじさんで、火がついた時、普通はすぐに逃げようとするはずなのに、あの人は、あの状況で咄嗟に、燃えている本棚から、本を一冊でも多く助け出そうとした。灼熱の炎に耐えながら、限界まで両脇に手あたりしだいに本を抱えて、結果、逃げ遅れて火だるまになって、黒焦げの状態で気を失ったまま救急車に担ぎ込まれた。その時、救急隊員の人を私の知り合いだと勘違いして、乗っていきましかって聞いたんだけど、全く知らない人だし、病院はどうしても怖かった…そしたらその隊員の方は、黒焦げのおじさんが救い出そうとした何冊もの本のうち、最後の最後まで彼の脇の下に挟まれたまま残った奇跡の一冊を私に手渡して、急いで救急車に乗り込んで走り去った。少し黒ずんでいたけれど、その本はまだ読める状態だったのよ

光子

そんなことより、あなたは？あなたは大丈夫だったの？

照子

確かに危険な状態だったのかもしれない。その時点でも、まだ火は勢いよく燃えていて、消火活動は続いていたわけだし

光子

でしょ？

照子

でも私は助けられた

光子

よかったー誰が助けてくれたの？

照子

演劇の仲間達よ

演劇の仲間達がぞろぞろと本屋に集まって来る

光子 よかった。そういう人達がいたのね

照子 そのことがあって、私達は、あの救急車で運ばれていった立ち読みのおじさんが残していった、この一冊の本に書かれていた物語を、劇にすることにしました

光子 あ、へえ…演劇のお仲間達が

照子 光子さん

光子 何、照子さん？

照子 光子さん、あなたならどんな風に、猿女のバトンを渡しますか？

光子 うーん…そうね…こんな風に

光子は照子の持つ本を持ち、それを演劇仲間の一人に渡し、それが順に回し読みされていく

炎上する本屋の前で芝居の準備がはじまる

飛鳥時代の宮廷が出来上がっていく。炎は琵琶湖畔のかがり火。湖の畔で盛大な宴が開かれている

帝（天智帝）らの前で猿女一座の者達がなまこを中心に舞っている（パス・リレーのイメージを重ねながら本が回していく動き）
本が照子の手に戻る

照子

西暦八七一年天智十年近江大津宮。猿女の顛末

2 近江宮

舞を見ながらオオアマと談笑する一座の長 頓服

オオアマ

本当におまえの孫娘なのか？

頓服

本当なんです。ですから、どうか、私の前で、そういう目で見ることだけは、どうかまだ勘弁してくださいませ

オオアマ

ふん、見えよんなあ

頓服

どっちがですか？

オオアマ

どっちもどっちだ

頓服

つまりオオアマ様、この頓服はお婆にしては人並み以上に若々しく見えますと？

オオアマ

つまりそういうことか？

頓服

そして孫娘がまた人並み以上に大人びておりますと？

オオアマ

いくつなんだ？

頓服

さて、それを言つては興をそぎます。あくまでご想像でお楽しみくださいませ

オオアマ

十三歳くらいか？何？まだ下か？

頓服

我ら一座の者達の生業は姿形年齢不詳。板の上での技をご覧になる方々の意のままに、何歳なりとも見事に化ける。それでこそ一人前の俳優（わざおぎ）でございますれば

ササラ

こらこらこらこら、猿女の女、ざわとらしい思わせぶりでおオオアマ様の劣情を刺激するでない

頓服 劣情とはいかに？

ササラ 離れよ、山姥！

頓服 山姥とはいかに？

オオアマ 妬くな、ササラ。ただの退屈しのぎじゃ

ササラ それにしては、やけに、のめりが前に前に

頓服 それはつまり、我が幼き孫の舞い踊る様に、オオアマ様の心ののめりを誘う、なまめかしき女体の目覚

め、その抗い切れぬ性的吸引力が伴っていったということでしょうか？

猿婆、おぬし、すべてがくどいぞ！

頓服 猿婆ではございませぬ、お妃様。私めらは猿女でございます

ササラ 猿婆でよい。いや、猿ほぼじゃ！

頓服 猿ほぼ！

オオアマ もうよい・・・

頓服 ははっ

オオアマ 見目はともかくクソ退屈な舞よ

頓服 ……おつとお・・・

オオアマ かように余計なことが気にかかるようでは、すなわち三流の技であろう、間違っておるか、頓服？

頓服 精進いたさせます！

ササラ ああいやだ、オオアマ様は誤魔化されたわ

オオアマ ほれ、帝も退屈そうに大あくびをしていらっしやるではないか

ササラ ……あれは……父上のあれは、きっと、今日も体調がかなりお悪いのです
オオアマ うむ……そして機嫌も悪い

帝（人形）が立ち上がるが、数歩歩いて胸を押さえて崩れる
側近が駆け寄る
舞が止まり、場に緊張が走る

ササラ 父上！

オオアマ ……皆の者、騒ぐでない！舞を続けよ！

帝が問題ないという仕草をして舞が再開される

天幕の裏では、猿女の一座の面々が次の出し物をスタンバっている

あられ ……侃さん、侃さん、大丈夫ですか？

侃 全然大丈夫だよ

あられ 言ってみてください

侃 え？

あられ 最初の段取り。侃さんから始まるんで

侃 覚えてるよ

あられ
言ってみてください

あられ
だから、まず出たら横に並んで最初のあの、富士山の歌だろ

あられ
違います。まず凧さんが出てからみんなが出るんです

あられ
だからそれはわかってるよ

あられ
緊張してます？

あられ
おまえしてねえのか？すげえな。帝の前だぞ

あられ
凧さん、凧さんがきっかけ出して、みんなが出ますから

あられ
わかってるよ

あられ
きっかけ、確認させてください

あられ
え？

あられ
きっかけ

あられ
だから、出て、笹で一周して、振って、トンだろ

あられ
笹は、上前に置いてある筒にさします。トンはきっかけじゃないです

あられ
わかってるよ

あられ
そこで笹の代わりに鈴を両手に持って

あられ
そう、鈴な

あられ
振って鳴らして、トンです

あられ
何だっけ

あられ
足で

凧 だから足でトンだろ

あられ トントントン、トンです。トントントン、トンで笛が入ります

凧 もう一回言って

あられ トントントン、トンで笛が入ります

凧 ややこしいな

あられ 本番ですよ

凧 わかってるよ

あられ 富士山の歌の後の長台詞大丈夫ですか？

凧 あれは大丈夫だよ

あられ 練習しましょう

凧 もう始まるだろ！

あられ 最初だけでも

凧 「あれに見えるは、蓬萊の・・・」だろ

あられ ちょっと違います。「あれに見えるは、雲透かし、蓬萊山の・・・」です。その先は？

凧 うるせえよ、あられ！いいだろもう！少しは心の準備させてくれよ！

あられ 凧さんの重要な台詞、いっぱいあるんで

凧 大丈夫だよ、話はわかってるから

あられ 凧さん

凧 そもそもほとんど俺が仕入れてきた話なんだよ。俺が一番わかってんだから

あられ

段取り整えんのが僕の役目ですから

凧

適当にしゃべって繋げて、何とかするって

あられ

それ一番ダメです。凧さん、段取り通りやってもらわないと、色々死にますから

凧

大袈裟なんだよ

あられ

ね。約束事をしっかりやらないと、伝えたいことがちゃんと伝わりませんから

凧

おまえ、何様なんだよー俺はおまえのおじいちゃんだぞ！

頓服がなまこを引っ張って来る

頓服

ほらこっちだーお仕置きだ！いくら前座だからってね、あんな気のない舞じゃ話にならないんだよーご

鼻肩筋のオオアマ様からさえ厳しい言葉が飛んだよ、わかってんのか、なまこ？

なまこ

ごめんなさい、一生懸命やったんだけど

頓服

一生懸命やりや、それで許されるほど世の中甘くないんだ。いいか、あんたの舞の出来ひとつに、私達

みんなの生き死にかかってんだからね！

あられ

落ち着いて、立て直そう。姉ちゃん、大丈夫だから。こっからだから

頓服

あられ！そんな半端なやさしさは、逆になまこの首を絞めるだけだよ！

あられ

ここからがうちの勝負だから

頓服

もう、凧さん、何なおこの感じ？

凧

大丈夫だ、頓服。俺で取り戻すから

頓服

きゃあ、凧さん、お願い！

あられ

みんなだね。みんなで取り戻そう

なまこ

私、出れない

あられ

姉ちゃん

なまこ

もう板の上が怖くて、何もできる気がしない

頓服

はあ？

凧

おい、なまこ！・・・怖くない！ちっとも怖くねえぞ。俺っちがついてるからさ

頓服

ちよつと、凧さん、何今なの？あんたいくら血が繋がってないからって、今は、仮にも孫娘に対して・・・

凧

おい、頓服！

頓服

はい！

凧

頓服！頓服！

頓服

はい！はい！はい！

凧

今から本番なんだぞ

頓服

はい！

凧

おい、俺達、猿女は一体何のために板の上に立つのか・・・何の為だ？何の為だ、なまこ！なまこ、お

なまこ

まえた！おまえに聞いてんだ！

なまこ

それは・・・

声

「猿女の一座」

あられ

やばい、呼ばれてる

胤 今、俺はなまこに大事なことを伝えようとしてんだよ！

あられ でも呼ばれてるから・・・

頓服 黙ってろ、あられ！

なまこ ……それは……見てる人を……

胤 見てる人を？

なまこ た……

胤 楽しませるため、そう！

なまこ (懸命に舞う)

胤 そう。そう。もっとそう。もっともっと、そうだ！

あられ そんなんじゃ全然だよ、姉ちゃん。中身が何も無い(なまこは踊りをやめる)

頓服 確かに中身は全然なかったな

あられ 楽しむ楽しみは見るとの勝手。大事なことは伝えることだ。そこが猿女の要

胤 そう。だから……こいつが言ってるのはつまり……

あられ つまりこの世に起こった本当の出来事を、この足でかき集め、この目で、耳で記憶し、整理し、モノにする。そして、その出来事を知りえぬ人々の前で、何が本当なのか、そのことの何が重要なのかを、この生身を通してモノにして伝えきること。それがモノになった猿女が世に問うワザオギの要だ……

胤 おい、ぼんくら！

あられ 俺ですか？

胤 そういうこと！

一座の者が、仮面を取ると照子

猿女一座の劇が、オオアマたちの前で上演される

照子

その日、猿女的一座は湖畔の宮の板の上で、病の帝とその側近、オオアマ夫妻ら王家の重鎮たちを前にして、辺境の地に伝わる、幾つかの古の物語を劇にして披露した。それは今だ王権の力およばぬ遠き異郷の地にて、かつて現実起こった事件の記憶であり、未だ誰も知りえぬ、遙か彼の地の微かな手触りだった

3 甲斐

盃を持った中世の男（長安）が現れる

長安

・・・その一座が板の上で演じる劇を、一番熱心に見聞きしていたのがオオアマ様、後の天武の帝であった

光子

一方、それから九百年ほど後、西暦一五七三年元龜四年甲斐国黒川 猿女の顛末

光子は中世の甲斐にいる

隣で酒を飲んでいるのは夫の長安である

長安

：当時、他の連中にとってそれは、所詮、退屈の陰気を紛らわし、日々を華やかに彩り飾るための娯楽にすぎませんでした。しかし、かのお方だけは、その重大な価値にいち早く気づいていらした。つまり、それは王家が、このクニを支配していく上で、何にも増して重要な「情報」という価値だ。オオアマ様は一座を手なづけ、巡業という体で全国各地に遣わしては、現地に伝わる事件を劇にして再現させ、自らの知識とされた。そのオオアマ様が、不機嫌な帝への謀反の疑いを晴らすため出家隠遁するべく、大和国は吉野山中深くに都落ちした折、我らの先達、かの猿女一座が道案内の任を賜ったご縁により、周りに巡って、今の我らがここ甲斐の国に・・・光子？

光子

表で音がしませなんだか？

長安 おい光子、聞いてましたか？

光子 聞いてます

長安 確かに、そなたにも指摘された通り、この猿渡長安、最近酒を飲むと、話が長くなりがち、ひいては同じ話を繰り返しがちであるという傾向が

光子 ちよつと見てきます

長安 そつ急くな光子。おおかた和助らが帰ってきたのであろう

光子 では！

和助 座頭、ただ今戻りましてございます

息が荒い和助 田馬、削、為が入つて来て、泥を落としたりする

光子 為！無事でよかった

長安 さほどに心配するほど危うき勤めでもなかろう

為 (一番息が荒い) はあはあ・・・大丈夫です、母上

田馬 水を一杯よろしいですか？

光子 ああ、水じゃ

田馬 夜通し駆けて来たもの、さすがにへばつたとみえるな

為 何のこれしき

田馬 もう強がらんでよい。ここは、わぬしの家じゃ

削 無理もない。為はまだお勤めに慣れておらぬゆえ

和助 田馬、削、それよりは座頭にご報告じゃ

長安 して、首尾はどうであったか和助？

光子 為、水を、ほれ一息に

長安 後でよい、下がっていないさい

光子 はい。(為に) 飲みなさい

長安 光子！

田馬 飲んじゃえ

為 (水をゴクゴク飲む)

長安 (咳払い) それで？

和助 座頭のご指示通り、この三日の間、我ら、手分けして扮装を入れ替え立ち替え、幾人もの架空の人物を

演じ分けて、三河遠江の各地の町に出没

田馬 山伏、坊主、浪人、油売り。数え上げればキリがないな。例えば為殿は時に、河原の遊女にも転じたも

のです

光子 遊女？何？為、それは聞き捨てならぬ

長安 おい、光子

光子 為、説明しなさい

為 一所懸命、自分のやれることはやってきました

光子 やれることとは、その具体的な内容は何です？

長安 光子、為はもう一人前の

光子 されどあなた、この子を一体いくつだと思いです？

長安 続けなさい。成果はどうであったか？

和助 されば恐らく、座頭の流言飛語の筋書き、狙い通りに見事はまったかと

削 徳川方には、信玄公を継いだ武田の御曹司、勝頼様の器量おぼつかなき印象がしかと刻まれたこと
し
よう

田馬 家康の耳にその噂が届くは確實

和助 これで間違いなく家康は油断する

田馬 その隙について近々勝頼様が一気に奇襲を仕掛けられるというのが座頭の筋書きですな

削 我らは知っている。勝頼様がその実、亡き御父上信玄公にも勝るとも劣らぬ名将であられることを

田馬 ようやく、勝頼様の下で存分に暴れられるのう

光子 戦になるのですか？

長安 遅かれ早かれな

為 母上、勝頼様の手で武田はきつと天下を取ります

長安 待ちなさい為

為 我ら猿女はそのためにお館様の手となり足となり、あるいは影となって、闇を走り抜け、持てる技を駆
使して敵を攪乱する！

長安 さように甘いものではない！

そなたの技などはおよそ未熟。大事なことが一切他人に伝わっておらぬ

為 どういうことですか？

長安 為 おまえは勝頼様のことを好いておろう

光子 え？え？そうなの？本気で好きなの？

為 もちろん。我が主君としてお慕い申し上げております

長安 そして心の底から尊敬しておろう

為 当然でございます。父上はまさかそうではないとでも仰せになるのですか？

長安 それが、正直に外に透けておる

為 は？

長安 そなたの猿芝居は、勝頼様をけなしているようで、聞いている方からするとまるっきり印象が逆です。あ

れでは、勝頼様が、下々の遊女にすら慕われる、逆に器の大きな立派なご当主と思われたであろう

光子 あなた？

為 ……見てたんですか？

和助 座頭？どういうことですか？

長安 はあ…和助に削、お前達夫婦の芝居は怪しすぎるよ。あれではいかにも忍び丸出しではないか？

削 お待ちください

長安 お前達は二人揃って自分の芝居に自分で酔っておるのだ。傍から見たら不自然極まりない。誰一人、お

ぬしらの話をまともに信じた者などいないでしょう

和助 そんなことは…

長安 あんな変な町娘いないよ

削 ……は？

長安 やってみ

削 は……

長安 やってみ、ここで

削 ……やだねえ、晴れたと思ったらまた雨かい？……ダメですか？

和助 確かにちょっと妙な感じだったかもしれないな

長安 おまえの元氣すぎる魚屋もな

和助 何ですかい！

田馬 ちょっと待ってください。何なんですか？座頭、わざわざ見てたんですか？

為 私達のことつけてたのですか、父上？

田馬 え？わざわざ？

光子 あなた、そんな、超面倒くさいことを？

長安 田馬、おまえもダメです。やりっぱなしなんだ。自己満足でやった気になってるだけ。喚きたてても相手はよそ見して聞いてない

為 そんなことありません。山伏の時も、坊主の時も、田馬さんは何に扮しても見事な化けっぷりだったわ。相手に話が伝わってないと、そんなことは一切意味がないんだよ！

為 じゃあ何？これは、父上は私達を試したってことですか？一体何のためにそんなこと……

長安 何のためにかわからぬか？

おぬし達の芝居はうわべに過ぎぬ。それゆえに勝頼様を心底から罵倒できておらぬのだ。それが相手に

も伝わる。わしの描いた筋書きを演じ切れておらぬのだ。それだけおぬしらは正直なんだろう。いい人間だ。だがそれだけでは芝居にならぬ

光子

その昔、大和吉野を拠点に全国を巡業して回る猿楽舞の一座であった夫猿渡長安率いる猿女の一党は、ある折、甲斐信濃の雄、武田信玄公にとりたてられ、その家中にて、猿楽のお役目とは別に、秘かに全国の情報を探り、それらを収集整理して天下の構図を描き、俳優（わざおぎ）の術をもって、様々な裏の筋書きを担う忍びのお役目を与えられて重宝されました。その大恩ある信玄公が病でお亡くなりになって後、後を継いだ勝頼様は長篠にて織田信長に大敗。その混乱に乗じ、この地を我が物にせんと、隣国の徳川家康が虎視眈々と狙いをつけていました

長安

これは何と、勝頼様！

台詞中、勝頼が供の高階を連れて長安の下をお忍びで訪れ、平伏する一同
高階がしやしやり出る

勝頼

よい、下がっておれ！高階！

高階

！（表で門番のように控える）

長安

かようにむさくるしき所へ・・・光子、何をしておる早う、色々と

光子

は、はい。何から何を・・・

勝頼

ああ、よいよい奥方。楽にせよ。楽に

長安

しかし

勝頼

こんな夜中に、急に現れたこの勝頼が悪いんじや

長安

申し訳ございませぬ。何のお構いもかなわず……

勝頼

あれだろ？色々、やってくれてんだろ、皆で？

長安

はあ

勝頼

着物相当くたびれてんじやんか。そんだけ大変だったんだな

田馬

何の。我らの如きは普段からむさくるしき風体でございませれば

勝頼

高階、あとで何ぞ着るものをこの者達皆にな

高階

！

勝頼

綺麗で粹なやつな。おまえ自分で選ばなくていいから。誰かに任せろ

高階

！

和助

さようなことはお気になさらず。忍びのお役目は余計に人目をひいてはいけませんぬゆえ

勝頼

あ、そつかあ。本当何もわかってねえんだな、この勝頼は

長安

当然のお勤めでございます。武田のお家の為であれば、着るものもとりあえず、何もかも、この一身

を投げ打ち奉公するが我ら猿女衆のお役目

勝頼

うん。そうだな。で、うまくいきそう？

長安

…正直申せば、あの家康をまことに欺くには、今しばし、時が必要でございます

勝頼

だよなあ

長安

しかし我ら、できる限りのことは……

勝頼

いいよ。あんがと。明日こちらから攻めかかることに決した

長安

まさか！無茶でございます。何の策も弄さずに、正面からうちかかるは家康の思う壺

勝頼

だからっていつまでも待っててもね

長安

勝頼様！

勝頼

大丈夫だよ。我らには父信玄が育てた最強の武田騎馬軍がある

長安

されどその騎馬軍の主力はあらかた長篠で討ち死にいたした

勝頼

若いのが後に続いているよ。やっとこさ世代交代だって張り切ってる

長安

いやいやいや

勝頼

こっから新しい武田が始まるんだよ、もうさ、グダグダ言ってるええで、いっちょやってやろうよ、俺達

新世代でさ

四人

はい！

勝頼

もうさ、裏でコソコソ、そういう芝居やなくていいよね、高階

高階

！

勝頼

もう正直にガチでぶち当たっていきこうよ。俺達若手には結局それしかないんだからさ

為

勝頼様、私のような小娘でも何かの力になりますでしょうか？

勝頼

なりますよ。なりますなります。逆に助けてほしいんだ、君みたいな子に。だからここに来たわけっし

よ！

和助田馬削為

お館様！

猿女衆が盛り上がりだして舞い始める

長安 ……よっ！（合いの手）

光子 あなた……

長安 ……猿女の古き仲間達は今ではあらかた死んでしもった。残る者は未熟な若い連中ばかり。わしだけではもう、如何ともしがたい

光子 でも、勝頼様はまことによいお人です

長安 それゆえに武田を滅ぼす……

光子 その年のうちに徳川家康によって武田は完全に滅ぼされ、勝頼様は自刃されました。残された猿女の若衆達は、その後、勝頼様の仇である家康の首を狙って、関ヶ原に結集することになります

鐘を鳴らして照子が現れる

全員が演技を切ったようになって、素の休憩の動きをする（台本を見たり、水を飲んだり。あくまで演じている役で）

4 比良坂書店跡地

照子

西暦二〇二〇年令和二年 猿女の顛末

焼け焦げて廃墟になった書店跡地にて、焼けた木材などを片付けている比良坂宗像
北風が吹いて、燃えカスの紙が空に舞う

宗像

ふう・・・何一つ片付かない。そのうちに、どうも半年余りが経ったようだ。あの火事以来、時間の流れがおかしくなっている。毎日少しずつ取り組んでるはずなんだが、一向に進んだ気がしない。この老体一つでできることは、たかが知れてるのかもしれないが、果たしてそれだけだろうか。半世紀近く続けてきた本屋だった。塵のように積もり積もって棚に並べられた、その中には、もう、全く同じものがこの世に存在しない本だってあったかもしれない。私はこうやって、永遠に失われてしまった過去を、掘り起こし続けているのだ。だが一向に進まない。進まないどころか・・・ん？

包帯を巻いた立ち読み男が近づいて来る

宗像

あ、あんたは！

男は微笑んで会釈し、冒頭の書店にいたのと同じ位置に立ち、本棚から本を取って開いて立ち読みする動作をする

宗像 黒焦げになったお兄さん！・・・彼は、火事で消失してしまったかつての比良坂書店に、あの日の午後

のように何気なくフラリ入ってきて、今や影と形だけになった、かつての書棚から、お何と！ここに
はない一冊の本を選び出し、手に取ってページをめくったのだ！

男 (謝る仕草)

宗像 ……いいんですよ。いいよ、立ち読み、続けて。続けてください！

男 ……あ

いきなり防護服の男(伴無人)がやってきて、白い消毒粉を噴霧器で宗像、男、書店跡地一面に噴きつける

男 うわあああああ！

宗像 うわああ！な、何をするんだ！

マスク姿の伴遺塵がゆっくり現れる

遺塵 これ、行って大丈夫だね(マスクとりながら)

無人 (うなづく)

宗像 貴様！何のつもりだ！

遺塵 ああ、動かないで、ストップ。粉が広がるでしょ

宗像

おまえのそのにやけた童顔を、たき火の中にぶちこんで、鳥みてえに丸焼きにしてやるからな！

遣麿

外人の台詞みたいだね

無人

ふう……（防護服の頭をと）

宗像

…もしかして、無人君か？

無人

お久しぶりです、お父さん

遣麿

よくわかりましたね。義姉さんと離婚してから、兄貴は急激に老けたから、わかんないと思ったけど

宗像

君、何してるんだ？

無人

見ての通りです。お父さん

宗像

見ての通りってそれ……

無人

お父さん

宗像

おい、もう一回お父さんと言ったら、その口に画鋏を千個ぶちこんでやるからな

無人

そりやないですよ、お父さん

宗像

いい度胸だ！

遣麿

まあまあ、落ち着いてよ。画鋏そんなにないでしょ

宗像

どういふつもりだ、これは！

遣麿

ご好意ですね。我々兄弟からの。一応、親戚だったわけですから

無人

お父さん、厄介な疫病がここいらで蔓延してます。強めの消毒剤を撒いておきましたが、効果は一時的

宗像

です。基本は自分でしっかりと対策をとって、清潔と、あと人との安全な距離感を保ってください

宗像

何の話をしてる？

遺磨 兄貴は今、厚生省の防災課で働く検疫官なんですよ

無人 全部こいつのおかげですけど

遺磨 そんなことない。やっぱり向いてたんだよ。兄貴は昔からどっか潔癖なところあるから

無人 浮美世、いますか？

宗像 どこに？は？どこにいる？御覧の通りだよ。どこにもいようがない

無人 どっかに隠れてないですか？

宗像 何しに来たんだ？おちよくってんのか？

遺磨 どこに隠れたんです？

宗像 ……黄泉の国だよ！

無人 それどこだ？

宗像 どこでもないよ。どこにもいようがないんだよ。聞いてんだろ。あの火事で死んだんだ。殺されたんだ

よ。こいつに。放火魔の弟さんにね

男 え？

宗像 そうなんだ。あの日、逃げ遅れてね・・・結局、助からなかった・・・全部この男のせいだ！

遺磨 本当ですか？

宗像 君のせいだろ。他に誰のせいだというんだー今すぐ地獄へ落ちるがいい、このクソサイコ野郎め！

遺磨 なんか怪しいんだよなあ、その小芝居加減が

宗像 無人君！知らなかったんだとしたら、そういうことだ。君の弟が浮美世を殺した。君の元嫁をね！どう

だ、君これ！どうする？

無人

それが実は、火葬する前に遺体を見たんですけどね

宗像

え？何？君、いつ？

遺磨

あの人には疫病への感染の疑いがあったんです。確認しておく必要があった

宗像

何だと？

無人

あれは何と言うか、まるで別人でしたね

宗像

そりゃ別人だろ。あんなに黒焦げになって……酷いことに……畜生！浮美世……

無人

いや、浮美世じゃないでしょう。赤の他人だ。それくらいわかりますよ。夫だったんですから。彼女の

体の特徴は、お父さん、あなたよりもよっぽどよくわかって……

宗像

おまえはここへ何しに来たんた！

遺磨

あの時、もう一人、いたね。お客さんが。彼とあともう一人、女性が

宗像

は？

遺磨

その女はどこへ消えた？

宗像

……さあね。あの火事場の混乱で……そりゃそうだろ。この人と違って、今日あれ以来で再会した

ばかりだし

遺磨

生きてますよね、娘さん。どこに匿った？

宗像

……

男

え？

宗像

……あの日、可哀想に火事で焼け死んだ日枝照子さんの遺体を、咄嗟に浮美世の死体に偽装しようと

思いついたのは、私の方でした。娘が何を知ったがゆえに、あのサイコ野郎に追われているのかはわか

遣麿

りませんでした。警察をもものともしない、その巨大な闇の力に相対するには、そこまでしないと、とても逃げきれないと私も娘も思いました。あれから半年、おまえがどこへ向かったのかは、知らない方がいいと心掛けてきたけれど、浮美世、お父さん、ここまで時間を稼げた。それなりに遠くまで逃げられたことと思う。あとは運を天に任せて……

やっぱ始まってのよね、小芝居

……全く。拡がってるねえ、猿女の病が

「無人がで消毒剤を宗像にぶっかける

宗像は拘束され、無人による尋問が始まる

見せしめに立ち読み男が磔にされ、足元から火であぶられる

男

あああああ！

宗像

やめろ！その人は、全く関係ないんだあ！

物影からこっそりと見ていた浮美子が旅立つ

浮美世

……ごめんなさい、お父さん！

5
昌枝

汽車からバスに乗り換えて山奥へ

駅で降りると、照子の妹昌枝が出迎えていて、お辞儀する

昌枝の暮らすアパートに身を潜めている浮美世がハッと目覚める

昌枝　　また夢でも見てはりましたか？

浮美世　　え？

昌枝　　何か寝言、言っていました

浮美世　　ごめんなさい。うとうととしてしまって

昌枝　　ビール持ってきます

浮美世　　いや、そんな。起きたばかりだし

昌枝　　ここら辺じゃ、起きたらまずビールなんです

浮美世　　本当に？

昌枝　　嘘かも。まあ言っても、もう三時過ぎやし

浮美世　　ごめんね、本当に。何もしてないのに私・・・

昌枝　　おやつやおやつや・・・はい、飲んで飲んで

浮美世　　ありがとう

昌枝　　乾杯、何に乾杯？

浮美世　　えっと・・・

昌枝　　そしたら今日もしつこく・・・姉、照子に。献杯

浮美世　　：献杯

仏壇に照子の遺影が飾ってある。チーン

昌枝　　今頃どこで何してはんねやろね、あの人？

浮美世　　え？

昌枝　　・・・などと思わず言うてしまいますけど（ゴクリとコップを飲み干す）

浮美世　　・・・そうよね。別に昌枝ちゃんみたいに血が繋がってるわけでもないのに、たった一度、ほんの一瞬すれ違っただけのようなものなんだけど・・・私も、あの時、照子さんが死んだって、信じられない・・・だって照子さんのおかげで、私は・・・

昌枝　　ここへ辿り着いた

浮美世　　そう・・・アレ・・・あれはやっぱり照子さんの声だったんだろうか？

昌枝　　私も浮美世さんがここへ来ることがなぜかわかった。浮美世さんのことなんか何一つ知らんかったくせに。怖いねえ。私もアレ、ああ、姉がずっと言うてたんは、こういう感じかってやっとわかった

浮美世　　昌枝ちゃんには、そういうことは今まで一度もなかったの？

昌枝　　ないない。照子とは作りが違いますから

浮美世　　血の問題ではないのね

昌枝 あれは病気です

浮美世 病気

昌枝 姉は嘘つきやない。でもたぶん病気やった。そういうことやと思ってます

浮美世 じゃあ、私達も病気になったのかな？

昌枝 伝染った？

浮美世 そっいうのって伝染るの？

昌枝 ……目に見えんほどちっこい神様がおるらしいです。体の中に。いっぱい

浮美世 いっぱい？

昌枝 そのちっこいのがたまに色々やかすらしいです。それで姉は、知らん人に急に大声で怒鳴ったり、森に入って三日三晩帰ってこんかったり、汚い池に突然飛びこんだこともある。仲良くしとったように見えたと旦那さんとも突然別れたし、可愛がってた子供も泣く泣く人手に委ねた。医者には絶対行かんし、何も食べられんようになったこともある。そんな時も、しゃあないって、何を言っても聞かんですわ。全部、ちっこいのがやかすしとったんですわ

隣の壁が叩かれ声がする

隣人(声)

嘘つくな！

浮美世

え？

昌枝

うるさいボケ！

浮美世

何？

昌枝

姉はずっと嘘つきよばわりされて、近所で迫害を受けてたんです

隣人(声)

はよ出て行け！

昌枝

うるさい！もう死んだわ！黙っとけ！

浮美世

・・・その照子さんがどうして私のところへ

昌枝

そっせいいうことになったんでしょうね

浮美世

ちっこい神様の意向？

昌枝

たぶんなんぼ考えても理由なんかわからないのですよ。そこまでちっこいもの考えることは、人間には

浮美世

わからないでしょ？病気に理由あります？

昌枝

病気にかかる理由はあるかもしれないけど

浮美世

え？

昌枝

つまり、そのちっこいのは口伝いにどんどん拡がっていくんや。何かそんなテレビで見たことあるわ

浮美世

何で拡がっていくの？

昌枝

うーん、領土を広げたいからちゃう？

浮美世

・・・帝政ロシアみたいにな？

昌枝

何それ、全然わからん

浮美世

カビとかみたいに

壁を叩いた音

昌枝

うわーきしょーカビな

浮美世

つまり増殖か

昌枝

そう。それや。人間にしたって、基本増殖しようとしてるでしょ？男も女も。やらしい話。みんなあれや、仲間を増やしたいんや

浮美世

仲間？

昌枝

もう、あのおっさん何やねん！察しろや！こっち喪中やぞ！

隣人（声）

気色悪い話してんやないぞ！何時やと思つとるんじゃ！

昌枝

まだ三時やろ！

隣人（声）

夜中の三時じゃ、ドアホ！

昌枝

え？

時計の音

浮美世

・・・私は取材の最中、ひょんなことからある奇妙な噂を耳にした。それは、遥か古より、この国の裏側にあつて、不穏の真実を隠蔽することで、社会秩序を調整し続ける、闇の権力の存在である。彼らによつて紡がれる筋書きは、真偽さだかならぬ歴史の捏造。つまり、我々が考える現実のあらかたはフィ

クシヨンだ…これがノンフィクションライターの私が辿り着いた現在の仮定である

妙なブザー音とともにドアが破られる

防護服の無人が機器を操りながら入って来るとブザー音が高まる

無人 ……絶対ここだわ。あ、みいっけ！

昌枝 あんた何なの！

無人 ああ、しばらくだね、浮美世

浮美世 え？……無人さん？無人さんなの？あなた？何なの？

昌枝 知り合い？

後から入ってきたマスクの遺鷹が銃で昌枝を撃ち殺す

浮美世 昌枝さん！……何てことを！

隣人が壁を叩く

隣人(声) ええ加減にせえや！

遺麿が壁越しに銃を何発か撃つと声が静まり、壁の穴から血だらけの腕が垂れる

遺麿 見つけたよ、義姉さん

浮美世 ……あ、あんた達は何者なんだ！

遺麿 ええつとね、兄貴、まずは消毒しようか……

爆竹の跳ねるような音と共に光が点滅して、遺影から煙と共に照子が出現する

浮美世 て、照子さん？

照子 手を！

浮美世 え？

照子 手を繋いで

浮美世は照子の手を握る

照子 濃厚接触

六七一年の劇をしていたメンバーが四方から入ってきて次のシーンの準備をする
遺麿 無人はその人並に飲まれて消えていく

煙が霧のように濃くなっていく

6 吉野道行

霧の峠を進む行列

オオアマ夫妻と猿女一座が吉野へ向かっている（オオアマとササラは輿に乗っている）

その一行に混じる照子と浮美世

列の中に光子もいる

光子

照子さんが浮美世さんと共に身を隠したのは、西暦八七二年弘安元年の大和路。謀反の疑いをかけられ

たオオアマ夫妻が霧深き吉野山中へ都落ちする、不自然に長い行列の中でした

ササラ

まだなの？

凧

もう少しです、ササラ様

ササラ

本当に道はこれであって的吗？

あられ

あってるんですね、凧さん

凧

間違いございません。霧深き獣道こそ、この凧さんの独壇場

頓服

凧さん、さすがにもう少し急ぎでね

凧

そう慌てるなって・・・一旦さっきのところまで戻ります

光子

一方、その西暦八七二年の同じ行列の末尾には、西暦一六〇〇年天下分け目の関ヶ原の合戦前夜、秘かな決意を胸に甲斐を立ち、かつて猿樂一座のワザオギとして修業を重ねた故郷へと里帰りする、夫猿渡長安とその妻、私、そして娘の為の姿が不自然に連なります

浮美世はカメラで道中の様子を撮影しながら進む

凧 やっぱこっちです

ササラ おい、猿

凧 凧です

ササラ まだなの？ 一体いつになったら着くのです？

凧 もう少しです。お妃様。ほんのもう少し

ササラ おまえ、朝からずっとそう言っておるではないか？

凧 実際、朝からずっともう少しなので

頓服 凧さん

ササラ 何？意味が分からん

凧 もう少しだけこうしていさせて、のもう少しでございます

ササラ は？

凧 おい、なまこ、こっち

なまこ はい、凧さん

凧 (なまこを唐突に抱きしめ) ごめん、もう少しだけこうしていさせて

頓服 おいおいおいおい！ 近親相姦だぞ！

凧 落ち着け、例え話をしてんだよ

頓服

だったら女房の私を抱いて例えればいいじゃないか！ほれ抱いた！こうかい！こうかい！

凧

何か伝えたいことが伝わりづらくなったな

ササラ

そもそも伝わりづらいわ！

オオアマ

落ち着けササラ

ササラ

全く。何度化粧直しをさせる気じゃ。もうすぐ着くというからその都度その都度……

オオアマ

さほどに几帳面に顔を整えなくてもよい

ササラ

でも汗が

オオアマ

どうせ猿しかおらん山奥じゃ

ササラ

でもオオアマ様がいらっしやるではありませんか？どうしても視線を感じてしまっんですよ。もう少し

女心というものをわかりただかねば

オオアマ

心配するな、ササラ。何年も前から猿女の者達と秘かに示し合わせて練りに練った計画じゃ

ササラ

さりとして、病に伏せられた近江の帝がお隠れあそばされる前に、すべての準備を整えねばなりません

凧

大丈夫です。万事俺に任せておいてください！

あられ

凧さんだけは板の上より俄然生き生きしてんだよな

なまこ

凧さんっていつの間にかいたよ

あられ

いつの間にか婆ちゃん夫婦になってたし

なまこ

いつの間にかいなくなってそう

オオアマ

すまぬな、ササラ、おまえを巻き込んでしまっ

ササラ

残念なことながら、わが父、帝の命はもう長くありません。だが今や周りに待てるは媚びへつらうしか能

のない側近ばかり。来るべき崩御の混乱を收拾し、傾きかけたこのクニを立て直せる器を持つ者は、もはや宮廷には一人もおらぬ。その時こそオオアマ様、あなたが天下に名乗りを上げる絶好の機運

オオアマ

ササラ、本当にそれでよいのだな。このオオアマ、そなたの父上を裏切ることになる

ササラ

それでよいのです。そもそも何度言っても、どうしてもあなたを世継ぎにしなかった父が愚かなのですから

オオアマ

しかし……あ！あああ！（急に苦し気に顔をかきむしる）

ササラ

いかなされました？いかなされました？

頓服

オオアマ様！

ササラ

もしや、何者かに毒でも盛られたのでは？

頓服

そんな隙はなかったはずですが……

あられ

凧さああああん

ササラ

刺客が紛れておるぞ！

頓服

ともかくなまこ、薬草を早う探せ

なまこ

そんな都合よく見つからないよ

オオアマ

ああ、クモが！クモが！クモの巣が！

頓服

クモの巣？

ササラ

そうじゃ、オオアマ様はクモが大の苦手なのです

頓服

何故？

ササラ

そんなことにいちいち理由はない。早ういたせ！早う！

一座の者で面倒くさそうにクモの巣を取り払う

ササラ

ええい、もどかしいーそごじゃー！（クモをつぶす）・・・オオアマ様、確かに死にました、ほら。私がやりました

オオアマ

見せるな・・・ふうう・・・

頓服

・・・行列出発じゃ

胤

こっちでええええす

ササラ

全く役立たずめらが

頓服

・・・いやはやまことに。こうしていてあらためて際立つものは、我ら猿女の衆の甲斐性なしぶりでございますな。歩いて食うて寝てまた歩いて、まるで猿の群れじゃ。やはり板の上に乗らぬことには、我らは何も生み出すことができぬ

オオアマ

さような心にもなきことを言うて何となく場を繋ぐでない

頓服

恐れ入ります

オオアマ

現に我を導いてくれておるではないか。旅から旅への毎日を送るそなたらでこそ、知りえる価値というものがある。今まさにわれはそこに賭けているのじゃ。貴族や百姓や商人だけが人の生き方ではない。その裏側を駆けまわる、そなたら漂泊の民の生き方が編み出した、新たな力の源が・・・

胤

こっちでーす

オオアマ

この先に待っているはずだ

道を塞いで自然の岩門がある

ササラ

果たしてこんな僻地に、そんなものがまことに待っているのをごさいますでしょうか？

頓服

何だよ、凧さん、どうした？おい、また道間違えたのか？おめえさすがにいい加減にしろよ

凧

うるせえー着いたっばいんだけどよ！

頓服

ぼいって何だ！

凧

塞がってんだよ

頓服

は？

凧は岩を叩く

凧

凧です・・・

頓服

凧さん、どうした？

オオアマ

どうやら行き止まりのようだな・・・

照子

それは猿女発祥の場所とされる、天岩戸でした。かつて天地乱れるを厭って、その岩戸の内に太陽神海照（あまてる）が引き籠りて岩戸を閉ざし、この世が闇に覆われし時、猿女の祖、天鈿女が、逆さにした桶の上で、光あれと身心あられもなく舞いしが、わざおぎの始まりとされる。人々、そのなまめかしき乱舞に狂喜し、暗闇に嬌声溢れ、天地に響き、たまらず海照、隙間より覗き見るを、さて今ぞと力自

慢が一息に女神を引き抜いて、すかさず太き縄にて闇への岩戸は永久に閉ざされたと伝わります

いくつか呪文を凧が言ってみるが何も変わらない

凧は桶を出してひっくり返し、そこに乗る

凧

シヨウマストゴオオン

凧の踊りは激しくなり、なまこを誘って二人で絡む

その様に嫉妬して、なまこを引きずり下ろし、頓服が凧と踊り始める

頓服のテンションが憑依されたかのように上がっていく

盛り上がったオオアマが凧を押しつけて激しく踊る

頓服を押しつけ、今度はササラが憑依されたかのようにオオアマと踊る

オオアマ夫妻を押しつけてあらが変なテンションで踊る

岩戸が少し開いて眩しい光が漏れる

すると女達（凧の妻たち）が凧に走りよってきて抱き着く

女達

凧さああん！

凧

待たせたな

頓服

何なのよ、このクズみたいな女どもは！

胤 俺の可愛い猿女の妾どもよ

頓服 そんな存在聞いてないわーあんた、隠してたのね！

胤 港に女はつきものさ。そもそもおめえもその一人だろ、頓服

頓服 そうなの？私、胤さんにとってそういう女だったの？

ササラ その前に港じゃないでしょ、海もない。まさにゴミクズだまりのような・・・

オオアマ ゆえにこそ誰の目にも止まらぬ隠れ里なのだろう

胤 長らくの旅路、お疲れ様でございました。ここが我が故郷、オオアマ様再起の拠点となる海のない山間の港町、略してクズでございます

ササラ 略した？

照子 そこは、そのすべてが、猿女のためにしつらえられた舞台でありました

海辺のきらびやかな神話的港町の光景を楽しげに演じる里の人と猿女の一座

オオアマ夫妻、長安一家はもてなされ、浮美世はシャッターを切っている

比良坂宗像が入って来て、人々をはたきで蹴散らしていく

最終的にそこは立ち読み男がいる火事跡の書店に

宗像 はいはいはいはい・・・何せ俺はこういう人種がそもそも大嫌いだ。まともに働きもせず、己の好き放題を勝手にやり通すため、周囲にたかって温情に甘え、のうのうと他力本願の人生を謳歌する。何を成

し遂げるわけでもないクセに、ささやかに暮らす我々生活者の苦勞を嘲笑い、上から目線でお気楽な夢

暗転

一幕終わり

物語を語る…

7 黄泉比良坂

火事跡の本屋

宗像と立ち読み男が奥にいる

長安と光子と為が到着し、長安は腰を下ろして水を飲む

為 この里でかつて、父上と母上は出会ったのですね

光子 もう何年になるのかしらね。でもここでは何も変わらないわ

為 これが、父上が私に見せたかった猿女の故郷…

光子 この何もない、焼け跡みたいな殺風景で何もない景色も、すっかりあの頃のまま。散々苦労した道のりの果てに、これじゃあね

為 でもよかった。生きてるうちにここに来て

光子 為、さようなこと、間違っても口にするものではありません

為 それゆえに父上は、最後に、私にここを見せておこうと思われたのでしょう

光子 何が最後のものですか！

為 母上、我らの決意は揺るぎませぬ。そしてそれは、死を覚悟せねば、なしえぬこととわかっております

光子 …為、あなた、いくつになった？

為 さあ、いちいち数えておる暇もござりませなんだゆえ

光子

いつの間にか、しっかりと大人になって……不憫じゃ……夫と連れ合い、子をなす喜びも知らぬままに、戦、戦の毎日に年を重ね、とうとう、その不憫な一生すら最後の時を迎えることになっては……

長安

何を道端で声を上げておるのです？

光子

だって、あなたこの子があまりに……

為

母上、そして父上

長安

どうした？

為

甲斐を出る前の晩に田馬様と夫婦の契りを結びました

光子

何ですって？

長安

おおい……

為

為はようやく人の妻となりました

光子

しかし田馬殿は……

為

わずかの間かもしれませぬが、為は夫を支え、猿渡家の娘として世に恥じぬ妻となる所存にございます

光子

……その田馬も、そして為も、武田残党の猿女の若者たちは、勝頼様の死後もその恨みを忘れず、打倒徳

川の悲願に水面下で身を投じ続け十余年、ついに石田三成に抗して天下を伺う兵をあげた家康の首を直に狙うべく、決死の暗殺計画が極秘に進められました。筋書きを立案した夫猿渡長安の見立てによれば、東西両軍は、およそ七日後、近江と美濃の境にある不破の関、通称関ヶ原にて激突する……その戦場の混乱に乗り、猿女の刺客が、一斉に命がけの接触を試み、老体の首を狙うというものでした……

長安

……まあよい。せつかく田舎に来たのだ。現のことはしばし忘れて、羽を伸ばそう。上流には、隠し湯も湧いておる。何日かゆっくり逗留し、若き猿樂の時代の思い出など語りながら、家族で骨を休めよ

うではないか

為

できれば私もそうしたい…でも父上、さほど悠長にしている時間もございませぬでしょう。すぐに取って返し、美濃へと入り、決戦の日に備えねばなりません

光子

そっただけど、せっかく父上がこうして家族水入らずの旅を思い立ってくださったのじゃ。一晩だけでもゆっくりしていこうぞ

為

母上、為はここまでの道中、道は険しくとも、十分に楽しうございました。この旅路の思い出を胸に、迷いなく、家康の首を…

光子

為！しっ！

為

申し訳ございませぬ

長安

為、父も母も、不破の関には向かわぬ

為

…わかつております。父上の筋書き、母上の思いの丈は、我ら猿女の若衆にお託しあれ。見事彼の者の首を挙げ、武田の意地を天下に轟かせて見せます

長安

…そして、為、おまえも向かわぬ

為

は？

光子

ごめんなさい、為！

為

！（騙されたと気づいて走り去ろうとする）

長安

光子おさえろ！

長安が素早く動き、為を捕まえる

長安 一時だけじゃ。光子、離すな（縄で縛る）

光子 ごめんね！ごめんね！

為 離して

長安 暴れてももう遅い。遣い鳩の知らせによれば、関ヶ原での戦端開かれるは早くて明朝。もう間に合わん

為 ……だましたのね

長安 お前以外の者は、おまえが加わらぬことを知っている

光子 あなたこれ……（縄の端っこをどう処理していいかわからない）

長安 皆、おまえに死んでほしくはないのだ

為 田馬さん！

光子 全然知らなかったの。まさか夫婦になってたなんて！

為 お願い、皆の下に行かせてください！私も武田猿女の一人なのです！皆と共に散らせてください！

光子 他の皆に託して祈りましょう

為 かような仕打ち、親でもなければ子でもないわ！

光子 為！

立ち読み男 （ソワソワして咳払い）

宗像 ちよつとき、よそ行ってやってくれる？立ち読みよりたち悪いよ、あんたら

長安 すでに刺客の筋書きは家康の耳に通じている

為 え？今何て？

光子

・・・あなた？

長安

お騒がせして申し訳なかった。ちゃんと客です。あらためて、ごめんください

宗像

ごめんくださいなんて、本屋に入ってまず客がそんなこと言うか？

長安

本を・・・

宗像

本をつて、そりゃ本屋ですからね。問題は本でしょうけど、これ何？冷やかしですか？御覧の通り、す

長安

っかり焼けてしまつてね。今は、立ち読みする一冊すら残ってないんだよ、見りゃわかるだろ！

宗像

え？

光子

あなたそれはもしや・・・

長安

いいんだ

光子

それだけはいけませぬ！

長安

許せ、光子

光子

・・・それは、古より綿々と受け継がれてきた猿女の要でした

長安

これを鑑定し、相応の金に換えていただきたい

宗像

・・・ふむ・・・これは、あれだね・・・ここにはないはずの本だねえ（身を乗り出して中身を読みだ

為

す。立ち読みの男も興味津々でのぞく）

長安

何？どうということなの？

長安

・・・この戦は家康が勝つ。もはや他の者では、この乱世を終わらせられぬ。これがこの猿渡長安が書

き上げた、天下泰平の筋書きだ

為 　　では田馬さん達は・・・

長安 　　残念ながら止めることかなわなかった

為 　　・・・見殺しにするってことですか？

宗像は本を男に渡し、どこから中身が詰まった砂袋のようなものを取り出して長安の前に置く

立ち読み男は、長安が渡した本を先ほどと同じ場所で立ち読みはじめる

長安が中身を確かめると、砂金が入っている

宗像はさらにどんどん砂袋を積んでいく

長安 　　・・・為、父は鬼じゃ。天下の為に仲間を金で売った。もう猿女を名乗ることはできぬ

長安は砂袋を全部かついで、どこかへ歩き去っていく

家康の影に突進していく田馬、和助、削

しかしその影は偽物で、振り返りにあいつ斬られる景が見える

為 　　・・・さような天下の・・・何と見苦しきことか！

光子 　　西暦一六〇〇年慶長五年、猿女の顛末・・・関ヶ原で石田三成に勝利した家康は、自ら將軍となって江

戸に幕府を開き、百年以上続いた乱世はついに終焉へと向かい、泰平の時代の扉が開きます。猿女の要
を捨てた夫長安は、その代償である黄金を手みやげに、家康の元に伺候。関ヶ原での内通の功と、武田

家にて培われた謀の才覚にて、後に金山奉行として取り立てられて大久保の姓を賜り、江戸徳川の礎を築いた大黒柱、大久保長安として歴史に大きな名をなすこととなりました

本物の家康の影に、砂金を奉納する長安

時が経ち、光子と為は長安からの手紙を読んでいる

長安

光子、為、そなた達に合わす顔はもうどこにもない。忘れてくれ。このわしは猿女の長安ではなく、天下の長安となった。きっと恨んでいることだろう。だがこれでよかったです。何よりもお前達を無意味に死なせることなく済んだ。これがわしなりのこの乱世への結論、この長安が辿り着いた一世一代の遠大なる筋書きだ。それはまだ終わっておらぬ。この泰平という謀を最後まで仕上げるからこそ、死んでいった仲間達に対して、わしにできうる唯一の償い、捨てていった家族に対する唯一の責務だと考えています…だが、猿女の名は捨てても、猿女の人生からは去り難い。夕暮れには一人庭に出て、ただ無心に舞っている。過ぎ去りし日々を、今も愛する妻と娘の顔を、ぼんやり思い浮かべながら、泰平の静けき黄昏に、ただ一人穏やかに、誰の為でもなく、誰が見るでもなく、何を物語るでもなく、何にもなるでもなく、ただ一人漫然と、板なき地面に舞っていると…懐かしや。クズの郷でのうら若き日々を思い出す…そうだ。これが私の追いかけた猿女の要だった…

刺客服部半蔵（伴遣磨）が長安を暗殺する

家康（伴無人）が現れる

遣磨 (半蔵面)

家康様、万事片付きましてございまする

無人 (家康面)

うむ。服部半蔵、執着至極。勤続(こ)苦勞であった、大久保長安

遣磨

(面とつて) 兄貴、いいんじゃない家康? すっごいあつてるよ。雰囲気がある

無人

(面とつて) っばい?

遣磨

ぼいぼい。本人にしか思えない

無人

服部半蔵もあつてるよね

遣磨

そつかな? あんまりよく知らないからな

無人

すばしこい感じあるじゃない? あつてるよ

遣磨

っばい?

無人

ぼいぼい

遣磨

何? 俺達、素質あるんじゃない?

無人

そついうこと?

遣磨

実はむいてんじゃない。こついうこと

無人

わざわざ?

遣磨

何? じゃあさ、劇団作つちやう? 兄弟で? コーエン兄弟みたいなさ

無人

ウオシヤウスキーとかね

遣磨

あれ、それよく知らないな

ふひと

宗兄弟とかね

遣磨 それマラソン兄弟？

無人 色々盛り上がってきたぞ！

遣磨 待って。やべ、これ伝染ったかも？

無人 大丈夫でしょ？嘘でしょ？

遣磨 でも一応、手洗おう

ふひと そっちの方がよっぽど潔癖だな

遣磨 川だよ。とりあえず、川でいいでしょ。こういうのスピード感が大事でしょ・・・

二人が慌てて去っていくのとすれ違いで出てくる日枝照子

二人は照子を認識していない

照子 そんな浮かれた兄弟がすれ違った私に全く気づかなかったのは、古より伝わる猿女秘伝、存在隠れ蓑の

術でした

浮美世 (隠れてる場所から出てきて) そんな秘術があるの？

照子 ごめんなさい。たぶん単純に、私がすでに死んでるからです

浮美世 え？じゃあ、あなたが見えてしまってる私は、本当はもう死んでるの？

照子 ただ、猿女の秘技で己の存在を消すことと、猿女が死ぬことで己の存在が消えることとは、結果としては同じようなことですよね

浮美世 そちらに問題はなくても、こっちは問題なのよ

照子 生きてる者は死んだ者の姿を見ることはありません。でも、死んだ者が、生きてる者に、姿を見せるこ

とは、百パーできないことじゃないんじゃないですか

浮美世 簡単には受け入れられない法則だわ

照子 観客は舞台裏の俳優の姿を見ることはありません。でも、舞台裏の俳優は観客に、姿を見せることが、

できないわけではないのではないかと

浮美世 余計わからなくなった。あなたは今、舞台裏にいる俳優だってこと？

照子 舞台裏も舞台だと考えるなりですよ

浮美世 益々わからなくなった

照子 私、俳優だなんて言っちゃいましたが、実は一度も舞台に立ったことないんですよ。実は私はずっと舞

台裏にいて、イヤモ二越しに指示を聞きながら、舞台の進行を司る裏方なんです

浮美世 え？え？わからない。でもその舞台裏も舞台なんでしょ？

照子 そうなんです。猿女のワザオギにとって要となるのは、板の上と呼ばれた桶の裏。舞台裏こそ、私達の

仲間が生きてきた世界だったんですから

照子が袖のカーテン越しに舞台を覗く

本屋廃墟の景が見える

浮美世

その舞台上には・・・父がいる・・・そしてあの日、炎上した立ち読みのおじさんがいる。あの日と違
うのは、店にもう本がないこと。店そのものがないこと。そして、あのおじさんの手に、ないはずの一

冊の本があること・・・あそこにいる照子さんが、すでに死んでいること・・・

浮美世と照子は隠れる

オオアマとササラが現れる

ササラ

ごめんください

宗像

ごめんくださいなんて、本屋に入ってます客がそんなこと言うか？

オオアマ

本を・・・

宗像

本をつて、そりや本屋ですからね。問題は本でしょうけど、これ何？冷やかしですか？御覧の通り、す

オオアマ

っかり焼けてしまつてね。今は、立ち読みしてる一冊しか残ってないんだよ、見りやわかるだろ！

オオアマ

その、立ち読みしている一冊を求めたい

宗像

ああ、そうですか。でも、あの人は今、手に持ってるからね。優先権はあちらにありますよね。まあ、

あの人次第だな

ササラ

おい、褒美はそなたの思いのままじゃぞ

オオアマ

おい、ササラ、待て

ササラ

言い値でよいぞ。こちらはいくらでも払う

オオアマ

おいおいちょっといくらでもというわけには・・・

宗像

まあ、あの人がどう思うか・・・

ササラ

バカ、聞け。いくらでも払うんだぞ。いくらでも払える。誰だと思つておる？！

宗像 順番ってものがあるからね

オオアマ わかった。あの者に話そう

ササラ おい、あんなの無視すりゃいいだろ？おい、桁が違っんだぞ

オオアマ 待て、桁は言うな……

宗像 順番は順番だろ。今はあの人キープしてる。つまり買う権利があるんです

ササラ おい、おまえ、おまえだ、立ち読み、買う気もないんだろーとととと代われ！

宗像 ちよつと

ササラ 空気を読めよ！おっさんーちよつとは自粛しろよ！

宗像 ちよつと、店内で大声出すのやめてもらえますか？営業妨害ですよ

オオアマ すまぬ。ササラ、出直すとしよう。無用な騒ぎになるのは避けたい

ササラ それよりこいつらぶち殺しましょうよ

オオアマ おいおい、それではせっかくここまで来た計画がぶち壊した。敵を作ってどうする？今の我らには仲間が必要なのだ

ササラ その為にどうしてもあの本を手に入れなければいけないのでしょ？

照子 浮美世とは別の袖のカーテンから覗く、頓服と凧

凧 本当にあのあんちゃん、大丈夫なの？

頓服 我らのような者を、あの方ほど買ってくれた御仁は他におらぬ

モノ好きだけじゃねえか

そのモノ好きに賭けていいと思うんだよ

ちよつと肩入れしすぎじゃねえか？

おや、胤さん、妬いてんのかい？

違うよ

まあそりゃ、何度かはそういうアレもね。ないことはなかったかもしれないね。いや、勘違いしないで

おくれよ。人となりを確かめるためだよ。一度抱かれてみないとさ、一回全部をさらけ出してもらわな

いとさ。一回。二回：おやどうしたんだい？そんな顔するんじゃないよ。仕事だよ、イヤイヤだよ。ね

え胤さん、ごめん、ごめん、ごめんなさい

いや全然そういうんじゃないよ

じゃあどうだっていうのさ？

：日陰暮らしの俺達猿女を、本当にお日様の下に連れ出してくれる人なんだろうな

賢きお方だよ。目も耳も広く行き届いている、生まれも定かならぬ、どこぞの一舎人が、その才覚と人

望で、いつの間にか帝の娘であるササア媛をめぐって、王族の一員にまで昇りつめた。いつの日か、帝

となられるべきお方ではなからうか。巷にはそんな声までささやかれ始めた

だが拳句に、年老いて猜疑心膨らむ、その帝に目をつけられちまった

いずれは幼き皇太子の敵となる・・・その妬み嫉みの危険をいちやく察して、あのお方は都を離れた

そこにつけ込んだわけだな、我らが猿婆が

オオアマ様を、我ら猿女の担ぐ神輿として利用する。その野望に便乗して、日の下の世に堂々と晒すの

よー我らのご先祖、「海人(うみと)」の生き様を

一方この間、ずっと逡巡しているオオアマ夫妻

宗像

ちよつといい加減にしてくれる？何やってんのよ、さっきから？急に声下げてき、ブツブツ言い争ってるかのようにして、何もやってないでしょ？何なの？ここは同時進行だけど今は注目して見るところではないな繋ぎの猿芝居はさ？

ササラ

やっぱり殺すしかないわ

オオアマ

ちよつとちよつと、落ち着いて話そう。私は客なんだ。商品を買っていつてるんだ。あんたの気にするべき相手は立ち読みのお父さんじゃなくて、どう考えても目の前にいる客なんじゃないか？本屋は本を売るための店だろ。その場で読んでもらうために本を置いておくところじゃないだろ？

宗像

・・・おい、色々言っって言いくるめようだったってそうはいかんぞ。こちとら知識じゃ負けない。何せ、私はうちで売ってる本全部に目を通してここに記憶してるんだ。マジで一文字残らずな。まあ、今はないけども、だからこそ、ある意味ね、ない本は全部ここ(頭)にあるってことですよ。うん。だけど、そのお兄さんが読んでる、その本だけがここにあつてここ(頭)にないわけだ。ね。わかります？つまりあれはね、売り物じゃないの。まだここ(頭)に入っていないから。ね・・・

宗像がイヤモ二越しにどこかから指示を傍受しているのがわかる

宗像

だから、あれ？・・・もおもしろい・・・

オオアマ

は？

宗像

いやだから、もしもおもしろもねってことですよ

ササラ

何もごもご言ってるの？

宗像

何もごもご言ってるんだ？

ササラ

おまえに言ってるんだよ

宗像

もしもし・・・これダメだ。たぶん電波切れた（イヤモニを外す）

オオアマ

でんぱ？

ササラ

何なのそれは？

宗像

わかんない。寿命かも

オオアマ

何が寿命なんだ？

宗像

わかんないけどダメだな、これ。今日はもう、閉めます

オオアマ

おいおい、ちょっと待ってくれ！

宗像

しょうがないよ。何かわかんないけど、突然切れちゃったからさ

ササラ

何が切れたんだ？

宗像

だから寿命だよ。命

ササラ

それは何なの？

宗像

わかんないけど、ま、また新しいのがそのうち届くでしょ（イヤモニ捨てる）

オオアマ

ちよ、ちよ、ちよ、せっかく、こんな山奥まで来たんだぞ、わざわざ

宗像 知らないよ。本店の意向わかんなくて、うちも勝手できないしさ

ササラ 本店？何かの支店なのこは？

宗像 支店じゃなくて書店ね

先ほど宗像が捨てたイヤモニを頓服が拾い、一座が吟味している

頓服 ……何なんだこれは？

胤 (イヤモニを持ち)……あたりじゃねえか？

頓服 え？これ福引？(イヤモニを持つ)

胤 もしくは…外れか！

ササラ そりやそうでしょうけど、何の福引？

胤 本屋の福引

宗像 おおあたり〜

宗像が鐘を鳴りしながら退場していく(福引当選のようでもあり、閉店の鐘のようでもあり)

オオアマ どういうこと？一体誰が、何にあたったんだ？

頓服 しっ！

なまこ 婆ちゃん！

頓服

何かが……ん……え……嘘……声が聞こえる！

近江宮で泣いている女官たち。焦ったように走り回る舎人達
倒れている帝の姿が見える

オオアマ

いかがした頓服？

頓服

不可思議にもこの石の向こうに人の声が聞こえ……

胤

その声で本屋のおっさんと繋がってたヤツがいたんじゃねえか？

ササラ

誰がそんなことを？

オオアマ

本店……

胤

この山奥の謎の本屋を遠隔装置で監視し、管理する必要がある

ササラ

何のために？

胤

それだけ、この本屋が重要な拠点だということじゃないですか？近江の王家にとっては？

ササラ

畜生！あのおっさん、王家の犬だったのか！

宗像

(遠くから遠吠え) ワオ

オオアマ

では一体、その王家に何が起こったというのだ？

ササラ

オオアマ様！

オオアマ

この福引、あたりかはずれか？

混乱に乗じ、倒れた帝の耳から石を取り出し、物陰から通信する宮廷の女官がいる

頓服

しっ！……え？……マジで？波奈備？波奈備なの？

凧

え？あの波奈備？

あられ

波奈備さん？

ササラ

誰だ？知り合いなのか？

頓服

あんたどうしたの、え？大丈夫？

オオアマ

頓服、説明しろ！

頓服

繋ぎとして秘かに都に残した猿女一座のワザオギにございます。どういわけかその者の声が……近

江の宮にて何やら大きな動きがあったようで

オオアマ

こっちに聞かせろ

頓服

ご説明申し上げよ、波奈備（イヤモニをオオアマに）

波奈備

もしもし、もしもし

オオアマ

聞こえている！

波奈備

あ、本当にオオアマ様ですか？初めまして。あ、私、人呼んで波奈備でございます。遠くからは何度も……

オオアマ

それはいいから、何があったのだ？

ササラ

もしや父上に何か……

波奈備

帝におかれましては昨晚様態が急変、その後の手当の甲斐なく、本日未明、近江大津宮にて崩御なされ

ました

オオアマ 崩御・・・(オオアマがとったイヤモニを頓服がすかさずつけとる)・

ササラ 何と・・・

オオアマ ついにか・・・

波奈備 今や都は上を下への・・・

頓服 (聞きながら) 大混乱だとのこと！

胤 そろそろだっわわかってたはずなんだから

頓服 しかしこうなるとオオアマ様の存在は野に放たれた虎(イヤモニをオオアマへ)

波奈備 いかにも。早くも不安に煽られた寵臣達が、吉野の謀反人をまずは急ぎ抹殺すべしと出兵の動きが出て

おります

宮での出兵の不穏な雰囲気聞いてくる

なまこ (オオアマからイヤモニ受け取り) それで波奈備さんは大丈夫なの？脱出できそう？

オオアマ まだ幼き皇太子の即位を万全にすべく、目の上の瘤は、致命傷となる前に消してしまおうというわけだ

ろっ

なまこ 波奈備さん？波奈備さん？(波奈備はイヤモニで話せない状況になっている)

オオアマ 想定内だ！

ササラ オオアマ様！

オオアマは決然とした態度で立ち読み男に寄っていく

オオアマ
・・・お父さん

立ち読み男
・・・お父さんでは・・・

オオアマ
お兄さんだね

立ち読み男
・・・はい

オオアマ
はい。ゆっくり読んでください。最後まで。その代わりに、次は私に読ませてください

立ち読み男
はい

オオアマ
待ちます

立ち読み男
はい

オオアマ
私の言うことに全部返事しなくていいです

立ち読み男
・・・はい

オオアマ
集中して

立ち読み男
・・・

オオアマ
この間に、私は最大限に想像を巡らせて、その本の中身への期待を膨らませたいと思います

立ち読み男
・・・

オオアマ
そういうことは得意だ。性に合ってる。想像の余地というものを、私は未だ採掘されぬ金脈だと信じて

いるんだ。その渦中にこの身を投げ出すことで人生の段階を上げてきた。つまり身の程を決してわきま

えることなく、その先にのめりこんでいく。そうしている限り、人が思いつくことは、いずれ叶う。金

脈は無限なのだ。隠され焦らされるほど、その予感には逆に具体的な手触りとなる。独り言です。どうか、

気にせず聞き流していただきたい

・・・すいません、集中できないんですけど

面白いですか？

はい

本当に？

はい・・・でももう何回も読んでるんで

何回も読んでるんですか？

・・・これしかないから

ですか

・・・もう、完全にここ（頭）に入ってるんですけどね、これしかないから

そうなんですか

これしか

じゃあもしよかったらそれ・・・

・・・ふう

大丈夫ですか

・・・あつつい！

確かにちよつと

・・・久しぶりにすげえしゃべったからかな

立ち読み男

オオアマ

立ち読み男

オオアマ

立ち読み男

オオアマ

立ち読み男

オオアマ

立ち読み男

オオアマ

立ち読み男

オオアマ

立ち読み男

オオアマ

立ち読み男

オオアマ

立ち読み男

オオアマ そんなに久しぶりに？

立ち読み男 俺は基本は黙読ですよ

オオアマ ああ

立ち読み男 ……あつつい

オオアマ 大丈夫ですか？（持っていた扇で仰ぐ）

立ち読み男 ……あつつい！

男はシャツを脱ぎだす

その際に何気なく本をオオアマに渡す

オオアマ ちょっとちょっとちょっと、え？あ！

男の肩から背には海人の入れ墨が描かれている

オオアマ 海人（うみと）？

立ち読み男 ……え？

オオアマ その入れ墨は、古代の伝説の民、海人のものではないか？

立ち読み男 まあ、うーん……

オオアマ 海の傍で育ったものだから……よく聞かされたんだ、海人の昔話を

立ち読み男

そうですか

オオアマ

私は海が好きなんだ

立ち読み男

そうですか

オオアマ

海なら、いつまでだって眺めてられる。それは水平線まで広がる我が想像の余地だ

立ち読み男

そうですか。そうです。私は海人のおじさんです

オオアマ

本物なのか？本物の海人なのか？

立ち読み男

本物です

オオアマ

あの伝説の？

立ち読み男

そうです

オオアマ

何で大昔の海の民がこんなクズみたいな山奥に？

立ち読み男

・・・うーん、まああれですね、色々ざっくりはしりまして

オオアマ

いきなりざっくりはしるのか？

立ち読み男

つまるところ、私どもは海照様に導かれて・・・

オオアマ

海照！太陽の神海照か！

立ち読み男

どんぶらこおどんぶらこつこお・・・あ、それ（本）、いいですよ。どうぞ

オオアマ

あ、ああ！おお！

立ち読み男

なぐがくれくながれくく波のうく

オオアマ

かたじけない！

オオアマは持っていた本を慎重にめくる

すると中から水が溢れて零れて広がっていき、海となる

布の海が出来上がり、オオアマは海人の漕ぐ船に乗っている

凧 どうやらあたりのようですね

ササラ これ結局何の福引？

凧 本屋の福引！

宗像 おおあたり〜（鐘を鳴らす）

以後の描写を猿女一座と立ち読み男（海人）が演じる

アマテルも象徴的に登場する（おかめの面）

照子 その本に書かれていたものは、ある流浪の一群の物語。大陸より故郷を追われ、黒潮の海流に乗って、

太陽の昇る方向に向かい、幾日も幾日も祈るように天を仰いだ。その魂は、夜は暗闇の波間に漂い、夜が明けると、太陽の女神海照に示された光の道筋を、なすがままに東へと導かれた。そして一群はどう

とう最果ての列島に漂着した。船を下りて、踏みしめたその大地の固さに足腰沈ませ、流転の漂泊からついに解き放たれた喜びを、震える体に漲らせて、やがてそれぞれがそれぞれの決意を固め、それぞれ

の足音を響かせながら、列島の隅々に散っていった・・・

頓服 それが我ら猿女が祖、海人のはじまりの物語でございます

オオアマ

猿女の祖・・・

頓服

様々な生き方をそれぞれが選びました。以来この列島には、海人が枝分かれた何百何千の生き方があった。海人であれば、何者にも与せず、己の足でこの地に立ち、この命を、太陽の下で、身体一杯弾ませ燃やし尽くしてくれよう。それが彼らの生き様でありました

オオアマ

・・・（本を読みながら）だがその後、列島には、海人とは違う者達も辿り着いた。彼らの憶病で手固き性質は、海人の気風を疎んじた。彼らにとって海人の存在は、平穩を脅かす危ういものだった。この海人と、海人を嫌った者達、すなわち現王家の祖先ヤマトとの争いが、結果としてクニというものを生むことになる。この争いを通じてヤマトは学んだ。不安定を取り覗き、平穩を維持するためには、王が民を統治するべきである。そうしてヤマトの考えたクニという仕組みが列島を徐々に覆っていった結果、海人達は再び追い出されて漂泊の民に戻る。今度は海ではなくて、山へ山へと追いつめられていった。そこで海人は身を隠し、迫害を逃がれて旅し続け、ひっそりと生き長らえてきたヤマトの影で生きざるを得なくなった海人は、かつてその祖を導きし光、海照の存在を、この吉野クズの里深く、天の岩戸の奥に封印しました。いつか、その太陽神を闇より立ち昇らせる時が再び訪れることを信じながら・・・

凧

頓服

オオアマが立ち上がる

猿女一座

オオアマ様

オオアマ

その、影に隠れて生きる海人達と手を取り合い、ヤマトのはしくれ、はぐれ者たるこの我が、もう一度

このクニを、然るべき形に創り直したいと思う！

ササラ

あなた！

オオアマ

海よりも広大な自由の余地を受け継ぐ日影の者達よ、このオオアマに力を貸してくれぬか？答えてくれ、

太陽神海照よ！（本を掲げる）

照子

そうしてオオアマが掲げた一冊の本こそは、岩戸に身を隠した太陽神が、人の目には見えぬ百万粒の小さな神様に身を分かち、いつかの日の出の時を待ち続けた仮の姿。今、その隠された物語より、一粒一粒の文字が言葉となって宙に噴き上がり、空気を伝って口から口へ、海人の仲間へ時知らせんと、猿女のリレーが一斉に伝染してゆく！

オオアマの持っている本が、各地の海人達にリレーされていく（オープニングのイメージ）

各地の山から下りてきた海人達が武装してオオアマの仲間として立ち上がる

立ち読み男は古代海人として槍を振り回し大奮戦

宗像にもリレーで本が回って来る

宗像

西暦六七二年弘安元年猿女の顛末。天智帝崩御の虚を突いて、オオアマ、吉野にて反乱の狼煙。猿女のワザオギは彼の筋書きのもと、その分身と化して山野を駆け巡り、各地に隠れ潜む海人の衆に一斉蜂起を説きまわる。瞬く間に大群となった反乱軍は、美濃と近江の境、不破の関に結集し、オオアマを大将に迎えて決戦の火ぶた！数では勝る敵軍に、千年の鬱憤槍に託して、古代海人の幽鬼が死出の舞、よ、立ち読みの兄ちゃん！その古の影に怯えて近江軍は総崩れ、若き皇太子は討ち取られ、湖畔の宮は炎に

巻かれて、その最後の炎上を湖水に映し、圧倒的勝利にてオオアマは、古都飛鳥へ凱旋、新都と定めて
天武の帝と自ら号し、新たなクニの筋書きを演じ始めた

8 天武

天の岩戸の前に凱旋する天武

オオアマは岩戸に例の本を掲げる

天武

太陽神海照よ！我が勝利の女神よ！長き航海を終えて迷える我らは、今ようやく新たな段階に辿り着いた。朕はこれより、我が祖国を日ノ下の国と呼び、ここに新たなる時代の幕開けを宣す！この輝かしき瞬間を、無限の黄金で照らし出し、今こそ歴史の闇よりその真実の姿を！光あれ！

オオアマが本を投げ上げるとそれは炎の塊と化し、明るい光を放って燃え上がって消えてなくなる

動揺する海人の人々

やがて岩戸がゆっくりと開き、中から海照（おかめ面）が現れる

たくさんの海人の女を引き連れている（これもお面）

海照がお面をとるとササラである

ササラ

・・・やりおったな

天武

やりましたよ

ササラ

あなた！

抱き合おうササラとオオアマ

後ろにいた女達も面を取ると、それは戦っていた海人の末裔の男達の身内

岩戸の内に駆け寄り、次々に抱き着く

立ち読み男は見つけた宗像に向かって抱き着きにいつて避けられる

宗像 へいへいへい、ディスタンスーディスタンス！

ササラ すいません、しめてください

天武 え？

ササラ 比良坂さん、お願いします

天武 ササラ？

宗像 ・・・はいはいはい

比良坂宗像が本屋を閉めるように岩戸を閉めていく

伴兄弟（その時代の姿）が出てきて、豪族らを指揮して岩戸に人々を押し込める

岩戸に駆け寄った海人達、立ち読み男らがそのまま強引に岩戸内に押し込められて、閉じ込められていく

宗像 ・・・何せ俺はこういう人種がそもそも大嫌いだ。まともに働きもせず、己の好き放題を勝手にやり通すため、周囲にたかって温情に甘え、のうのうと他力本願の人生を謳歌する

浮美世 お父さん、何してるの？ちよっと、すいません、通してください、すいません！

照子 浮美世さん！待って！

浮美世 お父さん！

宗像 誰がお父さんだ？甘えんじやない！

無人 まあまあ、お父さん

浮美世 え？何で？

無人 俺みたいなの、いろんな時代にいるんだよ

追いかけてきた照子が宗像によって閉まろうとする岩門の向こうに入れられる

浮美世 ああ、照子さん！

照子 あの時、火事で焼け残った一冊に書かれてあったお芝居はここまで。続きはあなたにこの劇を・・・

浮美世 照子さん！なんで？

照子 リレーします（変な声になり炎に包まれ蒸発するように消える）

浮美世 照子さん！

光子 （岩戸の向こう、照子の消えた闇の奥から現れ）浮美世さん！こっちへ来て！

浮美世 誰！

光子 濃厚

光子・浮美世 接触！

光子は浮美世の手を力任せに引いて岩戸の向こう側に引き込む
岩戸が完全に閉まり、しめ縄が渡され、封印される

頓服の猿女の一座は兄弟らに引き離され岩戸の外に取残される

あられ 何だよ、どうということだよ！

天武 …ササラ、これは一体

ササラ 恐れ多くも、帝がこれよりお創りあそばされる、新しき日ノ本の国の秩序には、海人達の自由の気風は
なじまぬ。それが万一無辜の民に広く感染せし折には、天武の治世を脅かす病の種となりましょう

天武 だから、岩戸の向こうの黄泉の暗闇に、再び彼らを封じこめたというのか？

ササラ 封じ込めたんじゃないです

無人 隔離させていただきました

遣麿 病気が治るまでです

天武 この者達は誰だ？

ササラ これから後、帝の手となり足となるもの達です

あられ オオアマ様、あなたは一体誰のおかげで、戦に勝てたと・・・

天武 待ってくれ。誤解があつてはならぬ。これは、ササラが勝手に・・・

ササラ 勝手に？お戯れを。すべては、何年も前から練られた帝の筋書きの通り。お忘れですか。かつてのある

天武 晩 近江の御屋敷の寝屋にて、この私にだけ秘かに語られた、壮大なる野望の枕詞を

天武 一つの話だ・・・

ササラ 私はその筋書き通りに自らの役を演じただけのこと。そしてこの猿どもも

凧 つまり俺達は踊らされてた猿だったってわけか？

ササラ 筋書きにのって踊ることこそワザオギの勤めであろう

なまこ あんた達は私達を裏切った！

頓服 なまこ！

天武 落ち着け。これは何かが・・・

ササラ 何かが間違って、おりますか帝？

天武 ササラ、そなたは一体・・・

ササラ 帝たる者、クニを治めるに、難題は山積

無人 面倒なものに関わり合っている暇はございません

遣麿 くだらないことでお手を煩わせるわけにはいかぬ

ササラ 帝には帝のお役目というものがございます。比良坂さん、お願い。(玉座を持ってこさせる) すなわち、

慌てず騒がず、どっしりと玉座に腰を据えていただかねば

天武 朕の役目を決めるのは帝たる朕だけだ

ササラ もちろんその通り。ですからこそ、面倒でくだらない、この猿めらをあえて残したのではございませんか。

か。あくまで我らは帝の筋書き通り。はて、何かが間違って、おりますか、帝？

：(用意された玉座に考え込みながら座る)

帝、これはいかなる次第にございましょう？

天武 頓服 頓服

頓服

ははっ

天武

：安心しろ。お前達の役割はまだ終わっておらぬ。むしろここからが見せ場と言っものだ

頓服

それゆえ我らだけが隔離を免れたということでございますか？

胤

つまり、ここまでのことは、ここまでのこと、全部忘れろって？

天武

問題が問題でなくなり、問題は、また違う問題の余地を生む。すなわち、ここからの朕の想像の余地は、帝としてこの国をどう治めていくのかということところにある

頓服

と、申されますと？

天武

：朕は不破の関から近江へ至る激しい戦の道中で、あの大切な一冊の本をどこかへなくしてしまったさつき手品みたいにこいつが消したんじゃないか？

胤

控えよ猿、帝のお言葉ぞ！

天武

いずれにせよ・・・

なまこ

いずれにせよ？

天武

いずれにせよ、ないものはない。ない本はない本なわけであって、ないものねだりをしていてもこれは始まらぬわけで、その中に置いて、できることを、全力でやっていくことの上に置いて、朕はしっかりと空前絶後の責任をとるつもりだ

頓服

恐れながら帝、それはどういうことをおっしゃっておられるのか、我ら下々の猿にはちとわかりづらいところがございまして・・・

天武

こうなったからには、ない本の代わりに新しき本を作り、我が国の在庫に補充せねばならぬ。これまでのことが事細かに紡がれ、これからのことを事細かく予告する、日ノ本の歴史の源となる一冊だ。その

本のそこにあることこそが、今後のこの国の礎となろう。紙をめくれば、そこより百万の文字が溢れ出し、やがて時の大河を伝って後の世の隅々に、朕の無限の想像の余地を埋めながら感染が拡大していく。汝らに新たな役を賜わろう。今ここにあるべき、その本の筋書きを、そなたらの猿知恵で絞り出し、ワザオギの力でモノにして、朕の目の前で劇的に演じてみせよ

頓服

ここはひとつ、よく考えて行動しないとイケないよ。下手をうったら、ここで猿女が全滅してしまうかもしれない

あられ

言われた通り、全力で稽古して劇を創るだけのことだ

なまこ

あいつらのために？

あられ

そういう役をもらったんだ。それを目一杯演じるだけの話だろ。今までと同じことだ

頓服

今までとは違っだろうね

なまこ

どういふこと？

凧

基本的にあいつらは、海人の種を絶やそうとしてる。所詮ヤマトは海人が基本的に嫌いなんだ

頓服

我らも用済みになった時点で、岩戸の向こう側へ追放されるだろう

なまこ

利用するだけ利用したら、消されるってこと？

あられ

だから、そうやって利用されてる内に、俺達が帝のクニに必要な存在であることを証明すればいいんだ

なまこ

どうやって？

あられ

面白い劇創って、目一杯楽しませるんだろ

なまこ

私達の仇を楽しませるの？

あられ

ただ、それだけじゃない。大事なのはあくまで伝えることだ

頓服

そこが猿女の要

胤

猿女の要・・・

あられ

つまりこの世に起こった本当の出来事を・・・この足でかき集め、この目で、耳で記憶し、整理し、モノにする。そして、その出来事を知りえぬ人々の前で、何が本当なのか、そのことの何が重要なのかを、この生身を通してモノにして伝えきる。猿女の要が今こそ必要な時だよ

なまこ

・・・猿女の要

あられ

海人の本はなくなってしまうけれど、あれに記されたかつての真実は、まだ俺達のココ（頭）に記憶として残ってる。今、このクニで同時進行で起こっている色んなことも、俺達が足で稼いでたつぷりココに貯めこんである。本当の出来事は、今ならまだここから筋書きとして紡ぐことができる。この状況を逆に利用して、大事なことを劇にして伝え残すことができる
果たしてそれが帝が俺達にやらせたいことだと思うか？

胤

全

わあああ！

遣磨 ごめんね、一応ね

ササラ これ行つて大丈夫？

無人遣磨 どうぞどうぞ

ササラ あの、ごめんなさい、ちょっといいかしら。あの、その人、あのね（頓服にコソコソ耳打ち）

頓服 海照の役を皇后さまが？

ササラ で、もう、それが私つてことでもいいんじゃないかなと思うの

凧 え？どういふことですか？

ササラ 海照つて太陽の女神様でしょ。だったらそれもう私だったつてことでもいいと思うの

あられ え？女神の役をやるつて話じゃなくて？

ササラ 違う違う。役をやるつていふか、もう、それが私自身みたいな

凧 ちょっとよくわからないです

遣磨 だいたいわかるでしょ

頓服 つまり太陽神海照の正体がササラ様であると？

ササラ まあ、そういう方が結局繋がるのかなつて思つて

凧 繋がらねえよ、無茶苦茶だろ

遣磨 でもちょっと思い出してみよ。岩戸から出てきて、凱旋した帝を出迎えた女神様の顔つて、あれ、確

実にこの人だったよね？みんな見てたでしょ？見てなかった？

ササラ この顔です。お面とつたら、こういう顔出てこなかった？

無人 見てただろ、猿ども

凧 いやいやいや

ササラ やばい、大事なシーンだったのに、視線それてた？だとしたら屈辱。私を見ないで、あなた達は何を見

てたのか？

夢でも見てたか？

寝てた？

おまえらの目は節穴だー繰り抜いても玉が出ねえな！

無人、無人、ちょっとだけ表現気を付けて。何せ私は・・・

女神様！失礼いたしました

それはさすがにおかしいでしょ

海照様は海人の民の大切な女神なんだぞ！

なまこ！

あ、今？

あれ、出ましたね禁句が

え？

その猿、今、何だった？

海照様は・・・

私ね

海照様は海人の・・・

ああ、ああ、ああ

ササラ

なまこ

ササラ

なまこ

ササラ

なまこ

遣麿

ササラ

頓服

なまこ

凧

無人

ササラ

無人

ササラ

遣麿

遣磨 ダメダメ。それ今後ダメだからね、本当に

頓服 海照様……

ササラ 私ね

頓服 海人……

無人 ああもう！ダメだって言われただろ今！

凧 何で、海人が禁句なんだ？

ササラ また言った。こっからペナルティカウントしますよ

凧 海人

ササラ ワンペナアアア！

遣磨 帝より本日、朕の一言。王家にとって厄介な連中のことは、全部クモってという呼び名に統一していく方

針である

クモ？

そういうのいっぱいいるからさ、まとめちゃった方がイメージしやすいって考えたよね。実にスマー

ト！

帝がクモが特別お嫌いなんだな。つまりこれ帝の個性だよ。ナンバーワンよりオンリーワンの精神だね、

実にスマート！

ササラ まことに帝はスマートホン

凧 つまり、海人も……

ササラ ツーペナ

遣磨

そこもだからクモってことになるわけでしょ、わかった？

なまこ

でも海人は帝に逆らったわけじゃ……

無人

とにかく海人はダメだ！

頓服

何で海人じゃダメなんです？

ササラ

ペナペナペナペナ〜ペナントレース〜

凧

海人がいなければ、帝は戦で勝てなかったんじゃないのか？

ササラ

……ペナルティキック！

凧

おい！

遣磨

まあ、仮定の話には答えられないですね。色々言っても結局、こっちから見たら病気だからね

頓服

病気？

無人

事実伝染するわけだから、奴らの身勝手な気風は

なまこ

全然わからない！

ササラ

それはお前達がバカ猿だからです

遣磨・無人

女神様！

ササラ

私の名は海照。太陽の女神。その女神と帝が何かの拍子にできちゃった。神と人間が、一つになっで

きちゃった。何ができちゃった？国ができちゃった

凧

一体何なんだ？この、でっちあげたできちゃった婚？

ササラ

私の名は海照。海の上で日が照ると書く。うーん、何かキャラが違う。わかった。じゃあ名前変えよう。

もっと上から照らしてみよう。海ではなくて天から照らす、アマから照らすと書いて、アマテル転じて

天武がやってくる

アマテラス、もしくはアマテラシテヤル、アマテラシテヤトルンジャモンクアルンカイ？

天武

そのぐらいでよいササラ、下がっておれ（ササラを下がらせる）

ササラ

どうぞどうぞ

天武

劇作は進んでおるかな？

頓服

それが、帝、様々な方が様々なことを・・・

あられ

いかに猿女とて、そもそも根も葉もないことを、宙より湧き出るのがごとくに捏造することはできません

頓服

あられ

あられ

そういうただの嘘っぱちを、我らはこの身でモノにすることは金輪際できないのです

天武

・・・ササラの申し出はあれはあれで受けてやってほしい

あられ

は？

天武

ここまで来るまでに、あれには並大抵でない苦勞をかけた。口には出さぬが、辛いことも多かったであ

あられ

ろう。これからは思うように生きさせてやりたいのだ

なまこ

しかし海人の女神にすり代わろうっていうのは余りに・・・

天武

俺達は今、何を創ればいいのか、わからなくなってるんですよ

天武

・・・これは今までそなたらには明かしてなかったことだがな、朕は実は先帝の弟であったのだ

天武

え？

あられ

いやいや、え？・・・

胤

それは完全に初耳ですね

天武

黙っていて悪かった

あられ

何でそんな根本的なこと黙ってたんですか？

天武

そんなことにいちいち理由はないよ

胤

いやいや、そりゃないよ

あられ

弟？

天武

で、あればこそ、先の戦で敵味方に分かれた双方が、朕を新帝として戴くことで、再び手を取り合うこ

ともできよう

胤

それも帝の筋書きですか

天武

つまり王位は正しく継承された

なまこ

嘘ばっかりだ！

天武

太陽神アマテラスより血脈が連なる、万世一系、偉大なる神々の正統に連なる王家の血筋、すなわち我

は、偉大なる帝アマノヌナハラオキノマヒトノスメラミコトである

全

・・・

頓服

・・・つまりそういう物語を板の上で語ればよろしいのでございますか、我らは？

天武

王は語らぬ。その心は察せよ、猿女（去っていく）

9 黄泉の国

岩戸の奥は暗い。ポツンと何かの光がさしているところにいる浮美世と光子。鍾乳洞のように雫が落ちる音が響いている

浮美世

一方その頃、その頃と言ったって、今ここがどんな頃合いなのか全くわからない。ともかく私は紆余曲折を経て黄泉の国の暗闇に紛れ込んでおりました

光子

いやあ……とうとうここまで辿り着いたわね！

浮美世

と、暗闇越しにやけに親しげに話しかけてくるこの人が誰なのかもちよつとよくわかりません

光子

猿渡光子です

浮美世

と言われましても全然わかりません

光子

やつと会えたねえ、フッフ

浮美世

私、死んだんでしょうか？

光子

死んでない！一切死んでない。死んでないのにここに来れた！やったあ！

浮美世

誰なんだもう……

光子

これ（イヤモニを見せる）

浮美世

イヤモニ？

光子

照子さんとは、ずっと繋がってましたから。（イヤモニに）ね？

浮美世

照子さん、いるんですか？

光子がイヤモニを浮美世に渡すと、お面の女性が別空間に。イヤモニに手を遣りながら面を取ると照子

照子

ごめんなさいね、急に炎上しちゃったりして

浮美世

照子さんー無事だったんですね

照子

ありがとう。死んでますけどね。相変わらず

浮美世

あ、ああ・・・

照子

つまりあなたは依然として死んでませんよ

浮美世

照子さん、どこにいるんです？ここには来れないんですか？

光子

大丈夫。来れなくても、我々、猿女は、これ（イヤモニ）でしっかり繋がってるから

照子

大丈夫ですよ

光子

あなたにも一個あげます。新しいやつです。ほら（浮美世の耳につけてやる）

照子

繋がってるよお

浮美世

これ、どうなってるんですか？

光子

どうなってるんでしょうね。仕組みの説明は難しいのよ。私みたいな古い人間には。でも、そんな私よ

照子

り、これの由緒はもつと古いって言うからびっくり

照子

波奈備システムといいます

光子

最初にこの技術をモノにした猿女の名前から来てるのよ

浮美世

猿女・・・

光子

そっ。猿女のリレーの標準装備

浮美世 何の話ですか？

光子 暗闇に集中してみても

浮美世 一体ここは……

照子 集中して

浮美世 ……

光子 ほら、あなたに今、バトンが届くよ

浮美世 あ……

色んな声が浮美世の頭の中に聞こえてくる

それは色んな時代（光子より後の時代）の猿女のリレーを繋いだ死者の声である

声を発すると光があたって暗闇に浮かび上がる（全員面をしている。いろんな時代の服を着ている。声は録音）

猿女1 こんにちは

猿女2 よく来たね

猿女3 待ってたわよ

猿女4 はじめまして

照子 比良坂浮美世さんです！

口々にしゃべる猿女の霊

声が反響し、重なえい加速していく（何言ってるか聞き取れないが、浮美世にはわかる）

音圧に耐え切れずイヤモニを耳から離す浮美世。すると光子以外の猿女がふっと消える（照子も）

浮美世 ……私が猿女？

光子 わかったでしょう？浮美世さん。あなたは猿女のリレーを受け継いだ、現時点でただ一人の、生きてる猿

女

浮美世 光子さん、あなたもすでに……

光子 そつ。とつくに死んでいる。私達はこの黄泉の国でしか存在しえない。でもこれ。この波奈備システムを通じて力を合わせれば、声を届けることはできる

猿女1に光が当たり、面を取ると為である

為 浮美世さん、そもその発端は私達親子にあるのです

光子 娘です

為 そして母はその責任を誰よりも自分のこととして、もう四百二十年もの間、背負い続けてきました
光子 あなただって。浮美世さん、この子は、女の人生のすべてを投げ打って、愚かな親からのリレーを繋いでくれたんですよ

為 母上、そんな風に言わないで。それは私の役割でもあったのですから

光子 可哀想に、為……ごめんね……

浮美世

・・・遙か古より、猿女の民に伝わる秘伝の書「猿女の要」。時の王家に禁書とされ続け、幾多の時代の猿女の一座に、世代を越えて引き継がれてきたその一冊の本を、己一人の独断で仲間を裏切り、権力の闇に差し出した男がいた

光子

それが我が夫、この為の父親、猿渡長安でございます

悪霊となった長安が暗闇に浮かび上がる

長安

・・・誰かが俺の名を呼んだ

田馬、和助、削の悪霊が長安の下に素早く馳せ参じ、陣形をとる

三人

座頭！

そこにフル装備の戦闘態勢で現れる悪霊武田勝頼

勝頼

何事じゃ、長安

長安

どうやらあの本を狙う者がやってきたようです、お屋形様

長安がクビで合図すると二人が刺客となって散る

光子、為、浮美世は物影に隠れる

三人の刺客は暗闇の中で猿女234を見つけたし次々と暗殺するみたいに猿女の霊を消す
奥に本屋があり、宗像がいて、海人が長安の売った本を立ち読みしているのが見える

浮美世 ご主人、どうなっちゃったんです？

光子 ・・・ここにはないはずのあの本を守ろうとしているのです

浮美世 どうして？手放した張本人でしょ

光子 だからこそでしょう

浮美世 一体誰から守るんです？

光子 私達からです

刺客が照子を見つけだし、襲うが照子は逃げる

光子 「猿女の要」を手放して掴んだ天下泰平の末に、夫は自らの筋書きに無惨にも裏切られて死にました。

その悔恨ゆえに成仏しきれぬ、猿女のはしくれとしての夫の意地が、どこかで歪んで、あの本へと向かってしまうのです。すなわち、多くの猿女を過酷な人生へと誘い続けた、その悲劇の種をもう二度と表に出してはならぬのだと

全刺客が浮美世に向かっていく

照子(声) 浮美世さん!(イヤモニに小声で)

浮美世 照子さん?

照子(声) さあ、あなたがあの本を盗み、岩戸の外に持ち出すのです

浮美世 私か?

照子(声) それがあなたに引き継がれた、猿女の役割なのです

浮美世 この状況で無理です!

照子 それでもやるんです!やるしかない、そのためにあなたはここへ来たんだ!

勝頼 ええいっ!

照子が勝頼に斬られ炎上して消える

浮美世 照子さん!

長安 お前だな

浮美世 え・・・

光子 夫の死後、私は何度もあの本を取り返そうと試みました。そして私が死んだ後は娘が続いた。でも、私達親子にはとうとうかなわず、その後引き継がれた、何代もの猿女のリレーは、ことごとく固く閉ざされた天の岩戸の前で力尽きた。死んで黄泉の国には入れても、本屋の壁は越えられない!あのねじれた本屋だけはいつの時代も現実だから。だから私たちは、あの本を取り返すまで、猿女の要をこの身体に

長安

取り戻すまで、その執念を、すべてを投げ打って繋ぎ続けてきた！

光子、あれは偽の猿女の要だ。古の民が仕掛けた残酷な罠だ。本当の猿女の要は己の心のみにある。夕暮れに一人庭に出て、ただ無心に舞っている。過ぎ去りし日々を、今も愛する妻と娘の顔を、ぼんやり思い浮かべながら、泰平の静けき黄昏に、ただ一人穏やかに、誰の為でもなく、誰が見るでもなく、何を物語るでもなく、何になるでもなく……

刀を捨て静かに舞い始める長安、勝頼、田馬、和助、削

その隙に光子と為で浮美世を危険から脱出させる

暗闇に一人、浮美世が残される

気づくと浮美世は天の岩戸の前において一人桶に乗っている

頓服

・・・我らはワザオギ

一座

座頭！

頓服

・・・帝の描いた筋書き通りにただ黙々とその役を演じるのみだ

あられ

ばあちゃん！

なまこ

王家が嘘をひろめる片棒を担ぐというの？

頓服

そつでなければ我らは一人残らず滅ぼされる

あられ

それで猿女を名乗れるのか？

頓服

我らが滅べば猿女の記憶はこの世に一切残らぬことになる

凧

俺達が生き残らなけりや、海人の歴史は完全に消される

あられ

だから猿女の要を捨て、根も葉もない偽の物語の、実のない役を、これから俺達は演じていくのか？

なまこ

人をたぶらかすために、猿女は板の上に乗るの？

凧

・・・ああ、そつだ

頓服

凧さん

凧

俺達はこれから、板の上で嘘をつく。それが猿女の十八番になる

あられ

納得できません！

凧

今後、猿女のワザオギにとって要となるのは、板の上と呼ばれた桶の裏。これからはその舞台裏こそが、俺達が生きていく本当の世界になる

なまこ

舞台裏？

頓服

その舞台裏で、凧さん、あんたは何を企むんだ？

凧

・・・あられ、おまえは帝の心を精一杯察して、とことん忖度して、全力をかけて嘘の筋書きを練り上げろ。そして、そこにある言葉一つ一つに、一文字一文字に、おいそれとは誰の目にもとまらぬ、小さな小さなからくりをいくつも忍ばせろ

あられ

小さなからくり？

凧

そしてその筋書きを板の上で演じる時に、猿女のワザオギは密かにそのからくりを要とする

なまこ

からくりが要・・・

凧

つまり罠だ。猿女の技で罠をかけるんだよ

頓服

帝の意を忖度し、偽の真実を演じると思わせながら・・・

あられ

その中に小さな真実を無数に忍ばせ、時が至れば、板の上に舞う猿女の身体、その動きが響いて、人々の思いと共鳴し、真実のからくりを顕わにする！

なまこ

凧さん！

凧

どうだ、頓服、ここからは猿女はそうやって、表で嘘の虚構を築きながら、実のところは裏を生きる。その要を懐にじっと忍ばせながらな

頓服

・・・まわりくどい話になるねえ

あられ

婆ちゃん、俺にもどこまでできるかわからない。でもやるしかない。そうやって、いつの日か時至るまで、猿女の要をこの先の世に繋いでいくしかない。俺に考えさせてくれ。そのからくりの筋書きを必ず編み出して見せる

頓服

それだけで残せるかね、猿女の要

あられ

残すのさ

頓服

…かつて太陽神海照引き籠りて、この世が闇に覆われし時、猿女の祖、天鈿女が、逆さにした桶の上で、光あれと舞いしが、わざおぎの始まりとされる…。本当の光を復活させるには、あられもなく、まじりつけなく、真実を語る振舞いが必要だよ。絶望の暗闇にいる海照に、岩戸の隙間より現世を覗き見させるには、真実の記憶を生身でモノにしたワザオギによる、愚直な“演劇”が必要なんだろうよ…。婆ちゃん…。

頓服

わかった、あられ、おまえ達は、ここに残って凧さんの描いたからくりの筋書きで勝負してみな

なまこ

婆ちゃんは？

頓服

この猿婆は、ここから姿を晦ます

あられ

それでどうすんだ？

頓服

どうせお前達よりは古い先短いこの身だ。奴らの目を眩ませて逃げながら、神出鬼没の山姥になって、ココ（頭）にまだ残ってる海人の顛末を、あの裏切りの帝の正体を、演じて広める真実の感染源になってやろう

なまこ

そんな…。

頓服

この頓服が姿くらませ目を引けば、からくりを忍ばせやすくなるだろう。つまり両面作戦だ。板の表と

板の裏。同時進行で敵をかく乱する。どちらかがうまく運べば、後世に繋がる。これでどうだい？皆の衆？

いい考えだ

楓さん

でもその役は俺の役だな

楓さん？

おめえみたいなのよろの猿婆にそんな大変な役が務まると思うか？すぐに見つかって殺されちゃうのは目に見えてる。感染源がそうすぐに消されちゃったんじゃ、目くらましにも何にもならねえ。そっちは俺が行こう。おまえはここに残って、あられの考えるからくり劇を完成させるんだ

楓さん、ダメだ。これは危ない役だよ

だから俺だろ。冷静に判断しろ座頭！

でも楓さん……

俺はそもそも、別に板の上でのワザオギでいることが好きなわけじゃない。旅するのが好きなだけだ。つまりそういう役に向いてる

楓さん……

……

……さて、そうと決まれば早速行くとするかな（出て行こうとする）

そんな今すぐ？

色々とココに詰まった大事なことを忘れないうちに、伝えていかないと……

楓

なまこ

楓

頓服

楓

楓

頓服

楓

なまこ

楓

楓

あられ

全

楓

なまこ

楓

楓

風の音がして凧が出て行く

凧 頓服

じゃあな(頓服を抱きしめて行こうとする)

もう少しだけ・・・もう少しだけこうしていきさせて・・・

(離れて)・・・ショウマストゴオオン!

あられ

凧さんっていつの間にかいたよね

なまこ

そっね

あられ

いつの間にか婆ちゃんと夫婦になってたし

なまこ

で、いつの間にかいなくなった・・・

頓服

・・・なまこ!

なまこ

はい?

頓服

おまえ、凧さんについて行って手伝いな!

なまこ

婆ちゃん?

頓服

すぐ行け!

なまこ

はい!(準備する)

あられ

なまこ!

頓服

で、もし、凧さんに何かあったら、おまえがその芝居を引き継ぐんだ

なまこ

・・・はい!

頓服　で、もし、胤さんに何もなかったら・・・あんた、胤さんと子を作れ

なまこ　え？

頓服　そんでその子にみっちり芸を仕込んで、後の世に猿女を繋げ

なまこ　はい！

風の音がしてなまこが胤を追って去っていく

あられ　・・・婆ちゃん

頓服　さあ、あられ、ここから忙しくなるよ

胤となまこは脱走し、王家の追手が二人を追いかける

あられと頓服の周りも王家の兵が囲むが、構わず二人は一心不乱に芝居を考えている

宗像　こうして猿女のあられが、猿知恵を振り絞って筋書きを構想し、頓服の下に残った猿女のワザオギ達が、

それをモノにして裏返した桶の上で語り演じた。これまでのことが事細かに紡がれ、これからのことを事細かく予告する、日ノ本の歴史の源となる物語。王家子飼いの才人、太遣磨がその台詞、ト書きを文字に書き起こし、後の世に伝わったものが現存する日の下始まりの一書とされる

オオアマ　今、ここにあるべきその本のあることこそが、今後のこの国の礎となろう。紙をめくれば、そこ

より百万の文字が溢れ出し、やがて時の大河を伝って後の世の隅々に、朕の無限の想像の余地を埋めな

がら、感染が拡大していく！

舞台の上で演じられる内容を遺蹟が文字にして書いている

書かれた一冊の本が、オオアマ・ササラを起点に時代を越えてリレーされていくことで倍々に増殖していく
そこから派生された日本の歴史が幾冊もの本に枝別れしていく

その本がすべて比良坂宗像の本屋の書棚に収まっていく（無人によって）

宗像はすべての本をむさぼるように読んで頭に入れ、生き字引のような存在になっていく

宗像の娘、浮美世は父以上に本の虫になっていく

現代の浮美世（離婚前）が本を熱心に何冊も読んでいる

照子が遠くの別空間に現れる

照子

やがて彼女は何かを見つけました

浮美世

ん？ん？ん？（何冊も本を読み続ける）

照子

それは帝の命じた日ノ本始まりの一書が書かれて、千三百年を隔てた時代。その長い時間をもものともせず、朽ちることなく、この世の裏側に秘され、真の手がかりとして残され続けた「猿女の要」…あれ、頓服が仕込んだ、からくり駆動の瞬間でした

浮美世

（本を閉じて）私は奇妙な可能性にとりつかれた。それは、遙か古より、この国の裏側にあつて、不穏の真実を隠蔽することで、社会秩序を調整し続ける、闇の権力の存在である。つまり、我々が考える現実のあらかたはフィクションだ・・・

現代人の姿をした無人がいる（袖口に血がついている）

そこは離婚前の浮美世と無人のマンションの一室

神棚があり、おかめ面が祀られている

心を見透かされたようでハツとする浮美世

浮美世

・・・！

無人

どうかしたか、浮美世？

浮美世

あなたこそどうかしたの？

無人

何が？

浮美世

血がついてるわ

無人

ん？鼻血だろ

浮美世

鼻血は鼻から出るものよ

無人

拭いたんだよ

浮美世

そんなに鼻血って出るの？

無人

何だよ、浮美世？ついてるのは鼻血だよ。それとも、嘘をついてるとでも言いたいのかい、この俺が？

浮美世

様子がおかしいから

無人

何でもないよ

遣磨が入って来る

遣磨

何でもないんですよ、義姉さん

浮美世

どこから入ってきたの！

遣磨

兄貴、シャワーでも浴びてくれば？

無人

そつするかな（出て行く）

遣磨

だって兄貴は人一倍、潔癖なんだから

浮美世

・・・

遣磨

どうしました？何か、気になることでもありますか？

浮美世

何も

シャワーの音が聞こえる

浮美世は無言で外へ飛び出して行く

神棚に飾ってあるおかめの面が飛び、着地すると肉がついて膨らんでササラ（アマテラス）になる

ササラ

（面をとり）あの女、気づいたやもしれぬな

遣磨

まさかそのようなことは

ササラ

現にこの一か月後に離婚した！

遣磨

何と・・・

ササラ

致し方ない。もはや人でもなし

遣麿

やっぱり我々も、人ではないのですか？

ササラ

人がこんなにも時間というものに侵されず、延々と生き続けられると思っか、遣麿？

遣麿

では、ササラ様、我々は一体何者なのでしょう？

ササラ

今更？

遣麿

何だかふと不安がよぎりまして

ササラ

問題ない。我は最高神アマテラスオオミカミであり、お前達はその手であり足であるのだ

遣麿

そういう役をやるって話じゃなくて？

ササラ

だから、役をやるっていうより、もう、それが私自身？みたいな？

遣麿

ちょっとよくわかりません

ササラ

今更？

遣麿

これってもしかして、病気伝染ったんじゃないですか？役に入り込みすぎて永遠に出られなくなったって、何かそういう俳優の怖い話、漫画で読んだことがある！

ササラ

落ち着け。そんなわけはない。我らが病のはずがない。考えてもみよ。我らが千年を越えてなしてきた

所業の数々を。ここまで来て、もはや、人でなし・・・

伊勢の森

無人に捕まっているなまこ

人質であるかのように無人はなまこに小刀をかざしている

そこから距離を離れて立つ凧は手出しできない

なまこ

凧さん、私に構わず走って！

凧

なまこ！

なまこ

どちらかが生き残ればいいんだ。凧さんが生き延びて、猿女の要を後世に伝えて

無人

お前達は帝のお友達だ。だからそうぞんざいには扱えないのが面倒くさいなあ！

凧

その子を離せ！

なまこ

凧さん、いいんだ

無人

ちゃんと帝に筋を通せよ。お世話になったんだろ！俺は潔癖な人間なんだ。だから、そういうところ放

つたらかして自分勝手に行動する連中が許せないんだよ

凧

わかった。俺がその子の代わりになる。そしたら、おまえの好きなようにすればいい

なまこ

凧さん！

無人

そんな台詞で、よしわかったってなるの見たことあるか？

凧

本当だ。嘘は言わない。俺の命をおまえにやる。煮るなり焼くなり、あとはおまえの自由だ

無人

自由だと？

なまこ

凧さん、この光景もしっかりと記憶して、伝えてね。本当にあったこと、本当に大事なこと、絶対に伝

無人　えていって。凧さん本気で走れば、こんなおいぼれなんか絶対追いつけない・・・

なまこ　おまえはちよつとしゃべりすぎだろ

無人　だから凧さん・・・

凧　少しは貝になれ！

無人はなまこの口に小刀を刺し入れ、口を裂いて、放り投げる

口を押えて唸りながら、のたうち回るなまこ

口から血が大量に溢れ、押さえた手の指の間から垂れる

あまりのことに凧は膝をつく

無人は血がついた手を振ってはらう

無人　さて、煮て食うか焼いて食うか・・・

凧が無人に飛び掛かり、二人でもみ合いながら沼地の草むらになだれこむ

凧　・・・なまこ、走れ！

なまこ　あああああ（しゃべれないが首を振っている）

凧　何ボサつとしてんだ、でくの坊！とつとと行くんだバカ！おまえが生きて・・・その命、死んでも生き

ながらえて、なあ、なまこ、おまえ、何とか、猿女を繋げよ！

無人

(起き上がり)・・・おまえは溺れて貝になれ！

凧

想定内！

再び取っ組み合いになる凧と無人。沼の泥水がはねる

なまこは走り出し、凧と無人の取っ組み合いの景が遠くなっていく

なまこ

う、う、あああああ！

無人が凧の顔を沼に沈めて、凧は足をじたばたさせている

とうとう凧は動かなくなり、無人は息を荒げながら立ち上がり、なまこの去った方向を眺める

浮美世

なまこは走り続けました。どこへ向かうのかもわからぬまま一心不乱に飲まず食わず、いくつもの山を越え、いくつもの谷を越え、昼間は南の空より執拗に迫りくる偽りの太陽の光から北へ北へと影を追いつつ、夜には、怖ろしき獣の気配に耳を研ぎ澄ませながら、暗闇の枝を伝って、野猿の如くに宙を舞った。数日後、ついに力尽きて気を失い、倒れたなまこの身体を、その細身の背に背負って、川伝いの洞窟へと運ぶ、一人の仮面の女の姿がありました・・・

洞窟に寝かされていた、なまこが目覚める

横でお面の女性が介抱している

なまこ

・・・れ？

女性が面をとる

なまこ

・・・ばらふいはん！

波奈備

なまこ・・・

無言で抱き合う二人

浮美世

その人こそは一座の仲間、近江大津の宮より、先帝崩御の第一報をもたらし、ようやく仮初の宮廷生活を引き払って、吉野の一座へ復帰すべく南への旅の途上にあった、猿女の一人、波奈備さんでありました

波奈備

可哀想に・・・なまこ、一体何があったというの？

なまこは決然として、身振りで波奈備に筆を求める

なまこ

ばらふいはん、ふおじを・・・ふおじをふあはひに、ふおしへへふらはい

波奈備

ふおじ・・・ふおじ・・・文字？文字をね！

なまこはうなづく

波奈備は文字をなまこの手を取って文字を教えはじめ

光子

波奈備さんは一座の中でも一番知識のある人だったらしいの。だから帝の傍に近づく役目も果たせたのね

照子

彼女はその洞窟で来る日も来る日も、なまこに根気よく文字を教えこみ、やがてなまこは、うろ覚えの文字を連れ、起こったことの記憶の筋書きを、たどたどしく綴りながら、波奈備に伝えはじめた

なまこ

ふあるへほからへ

波奈備

・・・さるめのかなめ

光子

それから何年なまこが生きていたのかはさだかではない。長生きはできなかったでしょうね。でも彼女は残すべきことを最後まで波奈備に伝えきった

照子

なまこの繋いだリレーを確かに引き継ぎ、その、なかったはずの一冊の台本を大事に抱えて、波奈備は北へと旅立ちました。その筋書きを身体でモノにして世の人々に伝え、そしてまたその要を、次の猿女に繋いでいくために

光子

その時、その耳奥に忍ばせた奇跡の祈り、それがこの、今あなたの耳に届く、通称、波奈備システムなのよ

波奈備

(イヤモニ)行ってくるね、なまこ(遠くへ消えていく)

天の岩戸の前に立って、照子と光子の声を聞いている浮美世。岩戸は固く閉まっている

浮美世

・・・やがて猿女のリレーはとうとうこの私に繋がり、その、なかったはずの一冊の台本が今、この天の岩戸の向こうで、私を待っている・・・

浮美世は傍らにあった桶を裏返して、その上で踊り始め、徐々にその動きが激しくなると、天の岩戸が徐々に開いていく

黄泉の国の奥では、歴代猿女達が面をつけて激しく踊っている

その中を奥へ進んでいく浮美世（猿女達がスクロールしていく）

無人と遣麿が鬼の面をつけて消毒を天に向かって噴き上げ、雪が降っているように

猿女達は浮美世とすれ違いざま、次々と面をとって顔を見せて振り返り見守る（光子、照子、為、波奈備、なまこ、頓服、あられ、凧）

玉座に座るオオアマ（歌舞伎死相メイク）

その玉座を守るように刀を構える長安、勝頼ら（骸骨を自分で操る）

おかめ面のササラ（アマテラス）が浮美世に立ちはだかると揺れるように踊りだす死者たち

浮美世が海人の鈴を取り出し鳴らすとササラのおかめ面は割れ、中から出たササラの顔は死相

死者はゆっくりと漂うように散っていく

その向こうに廃墟となった比良坂書店がある（宗像が火事の片づけをしてるテイで廃墟を作っている）

立ち読み男が後ろ向きで一冊の本を読んでいる

浮美世

ごめんください

宗像

(後ろ向きで) ごめんください?...本屋に入ってます客がそんなこと言うか? (振り返る)

浮美世

・・・濃厚接触!

浮美世の手が伸びる

マトリックス的に転んだ宗像のすぐ目と鼻の先を浮美世の手が伸びていく

立ち読み男が振り返るとおかめ面の海照 (コートなどを脱ぎ捨てて)

海照が浮美世の手をがっちりとり握手する

終わり

初演時配役

| | |
|-------------------|-------------|
| 比良坂宗像 (ひらさかしょうぞう) | 松村武 |
| 比良坂浮美世 (ひらさかふみよ) | 長谷部洋子 |
| 遣麿 (やりまろ) | 富岡晃一郎 |
| 日枝照子 (ひえだてるこ) | 田原靖子 |
| 立ち読み男・高階 (たかしな) | 元尾裕介 |
| 無人 (ぶひと) | 進藤則夫 |
| 日枝昌枝 (ひえたまさえ) | 柳瀬芽美 |
| オオアマ | 土屋佑吉 |
| ササラ | 藤田記子 |
| 頓服 (とんぷく) | 野口かおる |
| なまこ | 未来 |
| あられ | 渡邊礼 |
| 凧 | 山崎樹範 |
| 波奈備 (ばなび) | 梶野春菜 |
| 猿渡光子 (さわたりみつこ) | 田端玲実 |
| 猿渡長安 (さわたりちよつあん) | 亀岡孝洋 |
| 和助 | 福久聡吾 |
| 削 (そぎ) | スガ・オロベサ・チズル |
| 為 (ため) | 谷知恵 |
| 田馬 (でんば) | 飛田大輔 |
| 武田勝頼・隣人 | 阿部大介 |

カムカムミニキーナ 連絡先

ccm@3297.jp

090-6328-1076